

Passo a Passo



平成20年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教 職 課 程
司書教諭課程
司 書 課 程
学 芸 員 課 程

Vol. 11

Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

データの空白とデータで政策を立てる手法の不在 専修大学教職課程協議会委員長 法学部 教授 広瀬 裕子	4
ICTを活用した新しい教員養成の試み ―続『明日の教師を育てる』 ネットワーク情報学部 講師 望月 俊男	5

教職課程

卒業生から	10
教員採用試験体験記	13
教育実習を終えて	16
介護等の体験を終えて	23
小学校教員免許取得レポート	24
教科研修生体験レポート	25
学校教育ボランティア体験レポート	26
教職公開講座参加レポート	27
教員採用試験対策講座について	28
専修大学附属高等学校から「教育現場で感じる教師の使命」 専修大学附属高等学校 教頭 沼田 真爾	29

司書・司書教諭課程

学校図書館法改正から10年経過した今、司書教諭に期待すること 経営学部 兼任講師 渡辺 暢恵	32
図書館実習を終えて	34

学芸員課程

臼杵磨崖仏の仏頭復元と市民のコンセンサス 大分県臼杵市教育委員会 教育次長 菊田 徹	38
博物館実習を終えて	40

データ編（平成20年度）

資格課程履修者数	46
教員免許状取得状況一覧	47
教育実習先一覧	48
図書館実習・博物館実習先一覧	52
主な就職先一覧（教職、司書・司書教諭、学芸員）	53
資格課程年間行事表	57
教職公開講座開催結果	58
専修大学英語科教育研究会開催結果	59
司書課程就職（進路）相談会開催結果	59
資格課程教員紹介	60
編集後記	

■ 4つの資格課程

教職課程…中・高の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者に要求される教育職員免許状を取得させるためのものであり、教員を養成することを目的としている。加えて、平成10年より「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(介護等の体験法)が施行され、中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者には、介護等の体験が義務付けられています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

＜本学で取得可能な免許状＞

学部	学科	専攻	種類・教科	
			中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	—	社会	地理歴史、公民、商業
	国際経済学科	—	社会	地理歴史、公民、商業
法学部	法律学科	—	社会	地理歴史、公民
	政治学科	—	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	—	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	—	社会	地理歴史、公民、商業、情報(一部のみ)
	会計学科	—	—	商業
文学部	日本語日本文学科	日本語学専攻	国語	国語
		日本文学文化専攻	国語	国語、書道
	英語英米文学科	—	英語	英語
	人文学科	哲学生人学専攻	社会	地理歴史、公民
		歴史学専攻	社会	地理歴史、公民
		環境地理学専攻	社会	地理歴史、公民
		社会学専攻	社会	地理歴史、公民
	心理学科	—	社会	公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	—	数学	情報、数学

※「教員免許更新講習」(免許状更新講習)

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。本学では、免許状更新講習を8月の夏期休暇中に実施する予定です。

司書教諭課程…学校図書館の専門職

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な仕事に携わる教員のことです。司書教諭は教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、児童・生徒に対して図書館や読書に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は教育職員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する者は教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

2003年度からは12学級以上の規模の学校には必ず司書教諭を配置することになりました。そのため、教育の現場では司書教諭の有資格者へのニーズが高まっています。

司書課程…公共・大学図書館の専門職

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書室・資料室などで、資料(図書、CD-ROM等)を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職のことです。

司書の資格を取得するには、司書課程を履修する必要があります。

司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、急速に普及している電子メディア(インターネットなど)の活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



教員を目指す
あなたへ

教職課程

本が好き
図書館で
働きたいなら



司書課程・司書教諭課程

博物館・美術館で
働きたいなら



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイダンス

1～4年次
教職課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
介護等の体験開始
(中学校教諭免許取得希望者)
5月下旬～2月初旬

4年次
教育実習
5月～10月

卒業時(事前に申請した者)
教員免許状の交付
3月

1～4年次
司書課程
履修登録
4月上旬

4年次
図書館実習
(希望者)
8月～12月

卒業後(希望者)
司書課程単位修得
証明書の申請および交付

1～4年次
司書教諭課程
履修登録
4月上旬

卒業時(事前に申請した者)
学校図書館司書教諭
修了証書の交付

1～4年次
学芸員課程
履修登録
4月上旬

3・4年次
博物館実習
(館務実習)
7月～9月

卒業時(事前に申請した者)
学芸員資格取得証明書
3月

司書・司書課程サポート

学校図書館見学会 7月開催

司書教諭課程受講学生対象に
学校図書館見学会を実施してい
ます。

司書課程就職(進路)相談会 12月開催

図書館職関係者をゲストに迎え、
大学院進学や公共図書館関連の就
職について懇談をしています。

学芸員課程サポート

文化財セミナーを開催

平成20年10月に専修大
学創立130周年記念文化
財セミナー「発想転換」を
開催しました。

小学校教員採用特別プログラム

本学では、これまで小学校教諭の免許状取得の道はありませんでした。ニーズの高まりに対応するため、玉川大学と連携し、2007年度より小学校教員養成プログラムをスタートさせました。本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許取得に必要な講座を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすものです。ただし、免許取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。今年度、第一期生のすべてが免許状を取得し、内3名が4月から教壇に立っています。

※このプログラムは小学校教員の免許取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月初旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招聘し学校の様子や教員採用試験対策の話をしていただき、また採用試験官の経験者を招聘して試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市内の小中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、教師をサポートするものです。活動内容は、教科指導中の個別指導、部活指導、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校で、教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、川崎市を中心に7校と連携し、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる貴重な制度です。原則として3・4年生、大学院生、本学出身の科目等履修生が対象となります。

教員採用試験対策講座(エクステンションセンター主催講座) ガイダンス:4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいかわからず戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通じた計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

データの空白とデータで政策を立てる手法の不在

専修大学教職課程協議会委員長 法学部 教授 広瀬 裕子

必要な数字、必要でない数字？

高校生時代に交換学生としてアメリカに行った時だ。いくつものレセプションに出てスピーチをしなければならないようなことは、それはそれで厄介なことではあったけれど、私が不意打ちを食らって何度も困ったのは、日本についての日頃気にもしていない数字を何気ない日常会話の中で要求されたことだ。日本に興味があるからの問いとはいえ、都道府県の人口や日本に存在する学校の数など toss には出てこなかった。

研究者になってあとも、こんなことがある。欧米の研究者とのおしゃべりをしていて幾度となく話題となったのは日本の失業率の低さである。他の国々に比較して日本の失業率が格段に低いということがよく知られていた。しかし、日本の失業率の具体的数字など気にしたことがなかった。それは私だけではなかったようで、話の場にいた他の日本の研究者も具体的数字となると首を傾げていた。自国の数字を語らざる欧米の研究者は、それに怪訝な顔をするのである。

二地点間の距離をキロ(マイル)数で訊かれるのも困った。職場と自宅の距離、親が住んでいるところと自分が住んでいるところの距離のキロ(マイル)数だ。すいていれば45分の距離だなどと答えるのだが、そういう答え方に相手が一瞬戸惑っているのがわかる。

こういう経験をするたびに、イメージ的な情報しか提供できない自分に、あっ、またやってしまった、と思うのだが、経済状況が厳しくなってきた昨今は、日本でも失業率が具体的な数字で報道されるようになってきたから、数字が提示できなかったのは、ただ単にこちらが日頃必要としない数字であったということなのだろうとも思う。

学力に関する全国データが日本にはなかった

とするとまた不思議に思うことがある。戦後の長きにわたって日本には子どもの学力に関する全国データがなかったということだ。

頻繁にデータを使って教育を論じる欧米の研究者に対して、日本の研究スタイルはむしろ叙述的なものを良しとする特徴があるように私は感じている。データに対する考え方が違うということか。周知のように、1960年代のいわゆる全国「学テ」問題の混乱以後、全国規模で教育に関するデータを採ることが日本ではタブーになった。裁判にまでなったこのできごとを学んでいた私も、その種のデータを採ることを「政治的」に問題だと理解していた。日本の教育行政は40年以上に亘って学力に関する基礎データなしに教育内容も含めた教育政策を立案してきたということになるわけで、考えてみれば、ずいぶんリスクで無責任なことをしてきたものだとも思うのだ。それを黙認していたわれわれも含めてである。と同時に、それでも日本の教育が何とかなっていたことにも感嘆する。

日本はこうした教育データを必要としないということなのだろうか。もちろんそんなことはない。いつの間にか日本の子どもたちが世界の中でも勉強しない子どもになっていること、学力が二極分化してきていることに気がつかないまま、1970年代に始まった日本のゆとり政策は続けられていた。社会変化のトレンドを想定して構想された「新しい学力」観も、そうした子どもの実情の変化を把握しない形で学校現場の実践に付されて学力の二極化を増幅した。データなしにやっていたという時代ではなくていうことでもあろう。

43年ぶりに2007年に再開された「全国学力・学習状況調査」は、データの空白を埋める意味で貴重である。しかし、大騒ぎをしてデータを採ったものの、そこがゴールでないことにも気がつく。膨大なデータを前にして、それが活かせないのだ。日本のアカデミズムが、そうしたデータを分析して政策立案するノウハウを蓄積してこなかったことにも一因がある。数字に矮小化されず日本の教育政策をデータから起こす手法をこれから模索しなければならない。研究スタイルにおいても40余年の空白を埋める作業が必要だ。データの活用には今しばらくの時間がかかりそうだ。

ICTを活用した新しい教員養成の試み —続『明日の教師を育てる』—

ネットワーク情報学部 講師 望月 俊男

はじめまして

平成20年4月に、専修大学に着任いたしました望月俊男です。教職課程では「情報科教育論」と「教育実習（情報・数学）」を担当しています。専門分野は教育工学（Educational Technology）と呼ばれる分野です。ネットワーク情報学部では、「教育支援情報システム総論」「教育支援情報システム各論」という2つの専門科目を担当しています。

「工学」というキーワードは、理系を想起させると思いますが、私はどちらかということと文系の研究者です。教育工学は、視聴覚機器やコンピュータなどの様々な道具を活用したり、新しい教育方法を作り出して、教育実践をより良いものにしようとする研究分野です。ですので、Engineeringばかりだけでなく、Technologyを使ったPedagogyも扱う人もある幅の広い分野です。私は、とくにグループワークのような協調学習を支援する情報システムの研究を、大学教育で実践的に展開してきました。このときに基盤となった学問領域は、社会心理学や認知科学、学習科学と呼ばれる領域です。学習者がよりよく学ぶことができる環境を、学習という認知活動を踏まえてデザインしようという立場で、研究に取り組んでいます。最近まで知らなかったのですが、専修大学の教職課程の先生方の中には、グループワーク等の集団活動を研究されている方が多いので、今後を楽しみにしています。

教員養成との出会い

上記のように、私の専門は必ずしも教員養成に直結していません。私が教員養成に初めて関わったのは、2003年、博士課程2年次に行った研究がきっかけです。その当時は、電子掲示板を使った協調学習が多くの大学で実践的に取り組まれるようになってきた頃で、私はテキストマイニングを活用して、電子掲示板の議論への取り組み方を学習者が見直すことができるようにするシステムの開発に取り組んでいました（望月ほか、2005）。共同研究者に、滋賀大学教育学部の鈴木真理子先生と兵庫教育大学の永田智子先生をご紹介いただき、一緒に研究に取り組ませていただくことになりました。

その当時から鈴木先生と永田先生は、電子掲示板を活用した教員養成に取り組んでいらっしゃいました。お互いの大学間で、異なる教科の指導案の作成に取り組む学生同士の相

互評価を取り入れたり、大学院生や教科内容の専門家からアドバイスをもらえる教科教育論の授業を実践的に展開されていました。この教育実践の中で、私の研究は行われましたが、フィールドワークを行う中で、教師教育実践の興味深い側面と、私の研究領域との重なりに気づくことができました。

教師のような専門職の熟達には、授業の活動過程での反省的思考（reflection in action）が基本であると言われています（Schön, 1983；佐藤ほか、1991）。しかし一般的に、人間が独力で自己反省することは難しいと言われており、そこで他者の介入や相互作用によって協同的な内省を可能にするということが、これまで認知科学や学習科学の領域で注目されてきました。こんにち、大学で協調学習型の授業や学習活動が取り入れられることが増えてきていますが、それは学生の反省的思考を促すことで、高次の思考を育成し、理解を深めることを目的としていることが多いと思われます。

鈴木先生、永田先生の取り組みは、そうした他者、とくに異なる立場の人との相互作用をオンラインで実現し、教師のタマゴである学生に省察的な成長を促そうとするものでした。この実践は、『明日の教師を育てる—インターネットを活用した新しい教員養成—』という書籍（鈴木・永田、2006）にまとめられていますので、ぜひごらんいただければと思います。

新しい教員養成の試み

—『明日の教師を育てる』に続け—

専修大学に着任して、教員養成に携わることになり、私もこのときの経験を活かして、『明日の教師を育てる』に続く、新しい時代の教員養成のあり方を実践的に探究してみたいと考えています。ICT（情報通信技術）を活用して、これまでに、いくつかの取り組みを行っていますので、それについて簡単にご紹介したいと思います。

(1) ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）を活用した教育実習支援

「教育実習」は、教職課程における学習を集大成する教育プログラムです。しかし、教育実習の期間は、大学の授業担当者は、訪問指導時以外に教育実習生の実質的な指導を行う機会はあまりありません。

一方で教育実習生は、多くの不安を抱えて教育実習に臨んでいます（今栄・清水, 1994）。こうした不安は低い自己効力感や対人不安によるものといわれていますが（大野木・宮川, 1996）、こうした教育実習不安が高まることで、「学習指導の目標達成度」「教育実習後の教職に対する意識」が低減するおそれがあります（中山, 2004）。もちろん、教育実習不安を直接的に解決するには、教科内容知識の徹底した学習が有効と考えられますが、そこに至るまでの改革は、なかなか容易ではありません。

そこで、平成20年度に履修した学生に対して、近年学生の間で普及しているSNSを活用して、実習生同士が実習中にソーシャル・サポートを得られるような場を設けました。ソーシャル・サポートとは、周囲の他者から受ける有形無形の支援のことをいいます。同じ悩みや問題を持ち共感しあえる人々が、共通する目標に向かってサポートを授受しあうようなグループ（セルフヘルプグループ）を構成することは、ストレス軽減や健康維持に効果があることが言われてきており、最近ではインターネット上でこうしたグループ活動を行うことが増えてきています。この教育実習版を展開する、というアイデアです。

大学から離れて実習に赴く学生の多くは、中学・高校卒業時の同級生とともに実習に取り組むことになりますので、対面でのソーシャル・サポートがある程度得られると思いますが、残念ながら母校実習ができなかった場合、あるいは同級生と実習ができない場合には、こうしたソーシャル・サポートが得にくい状況になると考えられます。SNSを活用する取り組みは、こうした学生にとっても有効な学習環境を提供できるのではないかと考えられます。

最近、学生に普及が進んでいるmixiをはじめとするSNSにはWeb日記機能が搭載されています。日記に対しては、相互にコメントを行うことも可能です。こうしたWeb日記機能を利用して、実習生が日々の体験を報告して交流する場を設けることで、①実習日誌の枠に収まらない実習体験の省察を、即時に行うことができるほか、②現場で問題に遭遇した場合や、指導案作成や指導法に悩んだときに、実習生はすぐに担当教員や、履修生仲間と相談することが可能になる、③他の実習生の体験を共有したり、参考にすることも可能になるといったメリットがあります。

平成20年度の私のクラスでは、準備時間もなかったことから、So-netが提供しているSNSサービスを活用して実施しました（図1）。履修生には、できるだけ、2,3日に1度程度、日記を付けたり、他の履修者の日記を見たりするように奨励をしましたが、多くの履修生がSNSに参加して、実習体験を報告し合い、助言や励まし合いの活動が生まれました。先陣を切って実習に赴いた学生は、毎日のように熱心に実習生活を報告してくれたので、後発の実習生にとってはかなり参考になったようで、その閲覧がきっかけで熱心なコメント活動が展開することになりました。また、実習が終了した学生も、実習中の学生の日記を熱心に見て、意見や助言を行っていたのが印象的でした。

今年度はパイロット的に行ったもので、授業評価アンケートを実施して効用をたずねたところ、履修生からは「初めて授業に入る前に、どのように進めたのか、クラスの反応など、予備知識としてとても役に立ちました」「気持ち的に救われる部分があった。また、みんなも大変なんだと思った」といった

The screenshot shows a web interface for a social network site (So-net). At the top is a navigation bar with links like 'メンバー検索', 'コミュニティ検索', 'レビュー検索', 'マイホーム', '友人を誘う', '最新日記', 'ランキング', '設定変更', and 'ログアウト'. Below this is a secondary bar with 'ホーム', 'フレンド', '日記を読む', 'メッセージを送る', 'お気に入り追加', 'レビュー', 'マイフレンド紹介', 'マイフレンド追加', and '紹介文を書く'.

The main content area is divided into two columns. The left column contains a '5月のカレンダー' (May calendar) and a '最近の日記' (Recent diary) section listing entries like '校外学習 いざ鎌倉', '校外学習 事前確認', '日記 ヒトリゴト', '実習 おまけ', '実習 15日目追記', '実習 15日目', and '実習 14日目'. Below this is a '最近のコメント' (Recent comments) section with a link to '一覧を見る'.

The right column displays a specific diary entry titled 'さんの日記 (全員に公開)'. It shows the date '2008年 05月13日 23:01' and the title '【実習】2日目.' The entry content includes: '登校時刻7:40 下校時刻17:00', '1日の流れは昨日詳しく書いたんで今日は簡単に。', '■朝のHR', '■1校時 数学 指導教諭 参観' (with details about a quiz and a story about a bird), '■2校時 理科(指導クラス) 参観' (with details about a circuit experiment), and '■3校時 数学(指導クラス) 参観' (with details about a lesson).

図1 SNS上での日記の例

意見が聞かれ、教育実習の支援の取り組みとしては概ね成功したと考えています（詳細は、望月・北澤(印刷中)で報告）。SNSで相互に実習体験を共有可能になったことで、実りある教育実習をしたいという、共通の学習目標を持つ学生たちが、現場実習を実践しながら学びあう共同体を形成できたことがうかがわれました。来年度に向けてさらに改善をはかっていくところです。

(2) マンガを描くことによる指導案の見直し

教職課程の学生にとって、もう1つ大きな課題となっているのは、学習指導案を書くことです。教壇実習の技能も大切ですが、それ以上に、いかに生徒のことを踏まえた授業設計をできるようになるか、ということが、実際の授業で問題となりますし、教職課程で身につけるべき考え方です。

しかし、まだ教授経験がそれほど多くない3年生にとって、現場の生徒をイメージしながら指導案を考えるということは、かなり難しい課題と思われます。実際、最初のうちに提出される指導案は、読者（指導者や同僚の学生）が具体的な授業展開をイメージしにくかったり、発問・応答が盛り込まれないことが、しばしば見られました。

そこで、教室で相手をする生徒のことを少しでもイメージしながら、本時案を検討するための練習として、導入部分について、生徒の反応を予測しながらマンガを書くという活動を、授業に取り入れはじめました。マンガを描くと言っても、ペンによる描画は大変な作業になります。そこで、マンガ描画をコンピュータで支援するシステムVoicing Boardを利用することにしました（図2）。

Voicing Boardは、もともととはプレゼンテ

ション教育のために開発されたシステムです。プレゼンテーション教育は、情報教育の一環として、高等学校「情報」において、あるいは大学の初年次教育において行われますが、多くは発表のしかたや、発表資料作成の技術指導にとどまっています。しかし本質的には、プレゼンテーションは、ある目的のために伝えたいことを伝える相手があり、その相手や、関連する人々の意見とインタラクションしながら進められるものです。相手に自分の本意を適確に伝達し、ものごとを進めていくことができるようになるためには、そうした人々との声との仮想対話をとおして、ものごとと人々の関係のあり方を吟味できるようになる必要があります。もともとVoicing Boardは、プレゼンテーションの内容をマンガの形式で表現し、そのマンガの吟味によってプレゼンテーションの内容を改善するためのシステムです。登場人物とセリフから構成されるマンガを使ってアイデアを表現して、それを振り返ることで、学習者が、発表にどのような人々が関わり、どのような関係にあるのかを考えることが促進されると期待されます（鈴木・加藤、印刷中）。

学校の授業の発問・応答も、基本的には、授業者が学習者の学習活動を促進するために、何らかのかたちで生徒に働きかけを行い、それに対して生徒が反応して活動が行われる、その繰り返しで成り立っています。よい発問が行われれば、生徒の思考にゆさぶりをかけることができ、意欲を引き出したり、理解を高める効果があります。そこで、Voicing Boardを使うことで、仮想的にでもマンガ上に明示化された生徒たちに、どのように働きかけていくのかということを検討する演習をはじめました。

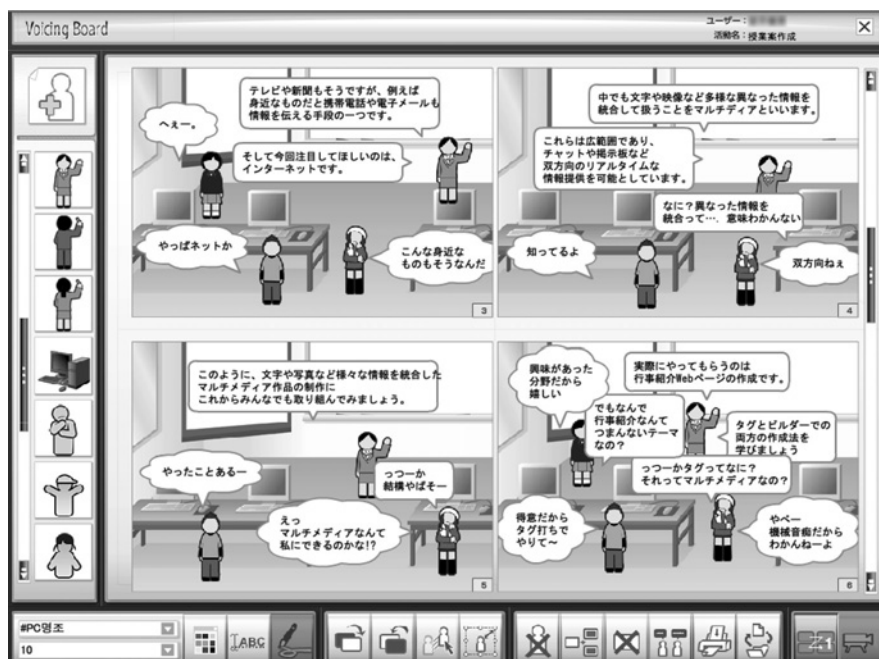


図2 Voicing Boardを使ったマンガ指導案

授業は、まず学生が自分の指導案を作成した後に、指導案をもとにマンガを描く、という形で進められます。指導案の中では十分想定しきれていなかったストーリーを、マンガという形で具現化することで、検討不足の点が洗い出されていきます。また、マンガ上に表現された自分の講義に対して、生徒がどのように反応するかを、生徒のキャラクターを用いて描きます。いろいろな生徒がいますので、どのように考えるかという予測は様々に出てきます。

Voicing Boardはインターネット上にマンガデータを格納し、ネットワークを通して交換することが可能です。そこで、平成20年度は、これに加えて第2段階として、教育実習Ⅲの履修生が教育実習Ⅰの履修生のマンガと指導案を見て助言を行い、教育実習Ⅰの履修生は教育実習Ⅲの履修生が作ったマンガを見て、良い点を学ぶという活動を行った上で、最終的には、マンガと指導案を修正して、模擬授業を行いました。

この効果については、まだ検討をしているところですが、マンガで書くことで、単に指導案を書くよりも具体的な発問が可能になっているように思われるほか、生徒の反応が多様になりそうだということに気づいている、黒板がマンガ上に背景として可視化されていることで、板書計画も意識するようになるなど、学生たちが、授業をする生徒のことを一生懸命考えようとしていることが見受けられました。

新しい試みを支えるパートナーシップ

このような新しい試みは、挑戦的なものですので、学習効果を確固たるものにするために、学外とのパートナーシップを築きながら、授業を豊かにする取り組みを行っています。たとえば、SNSの取り組みでは、元小学校教諭の先生と連携し、実習中のSNS上でのアドバイスや、実習前の模擬授業の指導に参加していただいています。また、マンガを使った指導案作成の取り組みでは、上越教育大学教職大学院の久保田善彦先生や、茨城大学の鈴木栄幸先生に、長年の教育現場の経験をもとにした適確なアドバイスを、学生たちにいただいています。学生の皆さんも、経験のある先生が見てくださることを励みにして、大変熱心に指導案作成、模擬授業に取り組んでくれました。このような学外とのパートナーシップは、教員養成の新しい試みをより実のあるものにする上で、また学生の学びをより豊かにする上で、大変効果的なものと思われる、新しい時代の教員養成の一つの方向性として、大切なことではないかと考えています。

むすびにかえて

1年目からこのようなチャレンジングな試みをしてきましたが、最初のステップとしては概ねうまくいったと考えています。これは、ひとえに学生の皆さんが、新しい試みの可能性を信じて、精一杯取り組んでくださったおかげでもあります。これからも、よりよい学びの機会を教職課程で提供できればと考えています。学生の皆さんも精一杯楽しんで、充実した学びの場にしていただければと思います。よろしくお願いします。

謝辞

SNSの日記、マンガ指導案の公開に同意してくださった学生の方に感謝します。また、本稿で取り上げた、実践的取り組みに関しては、端末室の利用などにおいて、専修大学情報科学センターの皆様にも多大なご協力をいただいております。深く御礼申し上げます。なお、取り組みの一部は、科学研究費補助金(基盤研究(B), 20300264)の支援を受けて実施しています。

参考文献

- 佐藤学・岩川直樹・秋田喜代美(1990) 教師の実践的思考様式に関する研究(1): 熟練教師と初任教師のモニタリングの比較を中心に. 東京大学教育学部紀要、Vol.30、pp. 177-198
- Schön, D. A. (1983) *How professionals think in action*. New York: Basic Books.
- 鈴木栄幸・加藤浩(印刷中) 社会的ネットワークに着眼したプレゼンテーション教育手法「マンガ表現法」の実施を支援するコンピュータシステムの開発と評価. 教育システム情報学会誌
- 鈴木真理子・永田智子(編)(2007) 明日の教師を育てる—インターネットを活用した新しい教員養成—. ナカニシヤ出版
- 望月俊男・久松慎一・八重樫文・永田智子・藤谷哲・中原淳・西森年寿・鈴木真理子・加藤浩(2005) 電子会議室における議論内容とプロセスを可視化するソフトウェアの開発と評価. 日本教育工学会論文誌、Vol.29、No.1、pp.23-33.
- 望月俊男・北澤武(印刷中) ソーシャルネットワークワーキングサービスを活用した教育実習実践コミュニティのデザイン. 日本教育工学会研究会報告集、JSET09-1.
- 大野木裕明・宮川充司(1996) 教育実習不安の構造と変化. 教育心理学研究、44、454-462

教 職 課 程



卒業生から（国語）

相模女子大学高等部教諭 小間 なつみ（平成19年度文学研究科日本語日本文学専攻修了）

「教員になりたい」と思ったのは、大学を卒業し、学習塾で準社員として勤務を始めてからのことでした。サービス残業や営業等の雑務で多忙な状況である反面、人にものを教える仕事は難しいけれど面白いと感じました。大学時代に所属していたゼミナールの教授に近況報告をしたところ、どうせだったら教員を目指してみないか、そのために院試を受けないかというアドバイスをいただきました。色々悩みましたが、仕事を続けながら院試を受けて専修大学に戻り、改めて教員採用試験を受けるべく勉強を始めたのです。

神奈川県採用試験は不合格でしたが、教授の励ましと共に私立学校の採用試験を受験して合格し、卒業した春から私立高校の専任国語科教員として勤務する生活が始まりました。

教員生活が始まってからは、苦労ばかりの毎日です。大学では日本近世文学が専門でしたが、教壇に立てば奈良時代の和歌から現代の評論文まで、すべてを教えなければなりません。苦手な分野があったとしても、生徒から見れば「国語の先生」なのです。しっかりと授業を行うために、一から勉強すると言っても良いほどの姿勢で準備を行いました。また、授業では、思いもよらないような質問が飛び出すこともたびたびあります。質問に対応できる知識と臨機応変さ（これが、なかなか難しいのですが…）が必要なため、様々な用意が必要になります。授業を盛り上げるための教材の工夫も行います。専修大学の図書館は卒業後も利用できるため、参考資料の準備の際に、頻繁に活用させてもらっています。

教員と言う仕事は大変だというイメージがあると思いますが、大変であるということは事実です。しかし、社会人として仕事を持つに当たって苦労は付き物であり、それはすべての仕事において言えることです。どんな職種でも、社会人としての責任感と覚悟が必要になります。教員という仕事は、人にものを教え、人を育てる仕事です。一コマ五十分の授業で、四十人もの人間と向き合いますが、向き合う相手は未来を背負った若い人間であり、生徒です。プレッシャーも困難も山ほどあります。しかし、自分が少しでも良い授業ができれば、その分四十人に対して良いものを発信できることになるのです。目の前の生徒のために少しでも良いものを伝えるぞ、と自分の力不足を感じながらもベストを尽くせるよう努力しています。まだまだ自分の未熟さに反省するばかりの毎日ですが、生徒の成長を見ることができた瞬間は、実にうれしいものです。

現在、専修大学で教員になりたいと考えている皆さんは、勇気を持ち、現実を見つめ、少しずつ努力を積み重ねていってほしいと思います。「教員になるのは大変そうだな。自分には無理かもしれない」私自身、何度も思ったことです。しかし、地道に採用試験の勉強を積み、面接や小論文の練習を重ね、履歴書や願書を送ることを繰り返していくうちに、間違いなく前に進んでいたのです。

専修大学出身の教員仲間が全国に増えることを楽しみにしています。大変なことは多いかもしれませんが、頑張ってください！皆さんのことを心から応援します。

卒業生から（英語）

新発田市立第一中学校 教諭 石黒 豊（平成17年度文学部英語英米文学科卒業）

「なぜ教師になろうと思った？」4月初旬、校長との会話の中でこのように質問されました。その時、私は「小学校の時の恩師に憧れて」と、優等生な返事をするしかできませんでした。新米教師として働き始めて5ヶ月が経とうとしています。しかし、未だにこの答えは見つかっていません。子どもが好きだから。英語が好きだから。今でもなぜ教師になったのか、自分自身不思議でなりません。しかしながら、大学院時代、「教師になりたい」という一心で、必死になって勉強したことを覚えています。そして、教員採用試験に合格した時、涙を流して喜んだことを覚えています。

私の1日は朝5時30分に起床し、その日の授業案を見直すことから始まります。授業の流れや活動が生徒の実態と適しているか、インプットやアウトプットの量が不足していないかなどを確認していきます。その後、朝食をとり、学校へと向かい、遅くとも、7時10分には学校に到着するようにしています。そして、授業で使うハンドアウトを印刷し、もう一度授業案を見直します。私がこのように何度も授業を見直しするようになったのには理由があります。それは、準備がおろそかな授業ほど生徒の反応が悪いという経験をしたからです。授業準備が行き届かないものほど、生徒は楽しそうに笑顔を見せてはくれません。また、教えたことが定着していきません。大人の都合で授業準備を怠らないことが大切であると考える、何度も自分の授業をモニターすることを続けています。

8時頃になると生徒が登校してくるので、生徒玄関に立ってあいさつをします。このあいさつが重要です。新採用の私が生徒との信頼関係を作ることはいばらのごとく、長い道のりです。朝の短い時間ですが、毎日生徒一人一人にあいさつすることが、その近道であると考えています。あいさつを返してくれる子、返してくれない子など色々ありますが、毎日変化する生徒の顔を見ることが私の朝の一仕事です。

朝のあいさつが終われば授業が始まります。私にとっては勝負の時間です。大学や大学院で学んだ理論を実践に移そうとしていますが、まだまだうまくはいきません。日々悪戦苦闘しています。

放課後は部活です。部活が終わり、生徒が下校し終わると7時になっています。そして、それから次の日の授業作りが始まります。私の1日はまだまだ終わりません。

このような毎日がルーティンワークのごとく続きます。しかし、辛いと思ったことはあっても、つまらないと思ったことはありません。それは、生徒が日々変化しているからです。教師のいいところはここだと思います。私たち教師は生徒という日々変化し、成長するものと相対することを仕事としています。だから、自分の仕事をつまらないと思うことはありえません。また、だからこそ、教師は学び続ける必要があると思います。変化する生徒には変化する教師が必要ではないでしょうか。

最後に、授業がうまくいかずに悩んでいた私に、大学院時代の先輩がくれたコトバを専修大学で教職員を目指す後輩の方々へ送りたいと思います。「すべての生徒があなたを慕ってくれるような、ドラマみたいなことなんて有り得ない。でも、もし、生徒の中に一人でもいいから、あなたに会えて良かったと思うってくれる生徒がいたら、それはすばらしいことだ。だって、一人の人間（教師）が一人の人間（生徒）を変えられることができること、それだけで大変なことなのだから。だから、あなたを慕ってくれる生徒たちのために責任を果たしなさい。怠けてはいけない。学び続ける。負けるな。」今は、生徒のために、生徒の笑顔のために、自分ができることを模索しています。授業改善などしなければならぬことはたくさんありますが、まずは、生徒と遊ぼうと思っています。たくさん話そうと思っています。それが、今の自分に欠けていることだと考えるからです。

卒業生から（社会）

専修大学附属高等学校 教諭 杉山 比呂之（平成17年度文学部人文学科卒業）

「スギヤマ母校に帰る」

平成20年4月、私は念願であった母校、専修大学附属高等学校の教壇に立つことができました。平成17年に専修大学を卒業後、教職課程の先生方、特に商学部の高山雅博教授のアドバイスもあり横浜国立大学大学院教育学研究科に進学。大学院2年目からは都内の女子中高一貫校で非常勤講師として勤務させていただき、講師2年目の冬に母校の日本史の専任教諭としての採用が決定しました。上述からは、トントン拍子で進んだようにも見えますが、東京都の採用試験や多くの私立中高の採用試験を受験した結果、幸運にも採用された中のひとつが母校でした。

そして、胸膨らませて母校の教員として働き出した4月から、私の予想を遙かに超えた「激動」の日々が始まりました。朝は6時半に学校に到着し、学校を出るのが9時、10時になることも珍しくありません。こうした激動で私を支えてくれるのは、この仕事への「情熱」、そして私をとりまく同僚の先生方や生徒、保護者、地域住民の方々の存在であると感じています。

そのような私が専任教諭として行わなくてはならないこと、それは大まかに①学級経営、②教科指導、③校務分掌、④部活指導の4項目に分類出来ます。以前、ある私立高校の採用試験を受験した際に、自らの力を10として、上記の4項目にどのように振り分けるかという質問を受けたことがありました。その時私は、学級経営と教科指導に各3、校務分掌と部活指導に各2という答え方をしました。しかし実際には、10の力を無理矢理40にして、全てに10ずつ振り分けなくてはならない、それが私の現状です。

まず、①学級経営においては、初年度から1年生の担任を受け持つことになり、入学式は新生以上以上に緊張していました。そして、一人一人にどのようなことを伝えられるのかを試行錯誤しながら、日々生徒と向かい合っています。しかし、新任教諭がどれだけ努力をしてもベテラン教諭のようにはいきません。とにかく、寝る間を惜しんで一生懸命に生徒、そして保護者に対応していくことをモットーにしています。また、②教科指導

については、日本史という科目の特性もあり、毎日教材研究に追われています。これは、私の今までの努力不足という面も否めませんが、やはり目の前の生徒に応じた授業を構築することが必要不可欠であり、さらには基本的に受験指導の無い附属高校の特徴を最大限に活かして、実物史料やグループワークを用いながら、生徒の興味・感心を高める授業を行うように心がけているからです。そして、③校務分掌は、入試広報・環境整備・国際教育・交友に配属していただき、特に入試広報を中心に活動しています。入試広報では、中学校訪問や学校説明会などで多くの方と関わり、良い刺激を受けています。最後に、④部活指導では、私が中学・高校と続けた柔道部の顧問を任せられ、恩師とともに人間形成を主眼として指導をしています。

このように、教師というのは様々なことをこなせるオールラウンダーでなくてはならない職業であると痛感しています。しかし、私は忙しいながらも、この仕事の魅力にどんどん引き込まれています。ですから、教師を目指す皆さんにも、ぜひこの仕事の魅力を体感してもらいたいです。そのために、私がみなさんに伝えられること、それは「決してあきらめない」ということです。教員採用への道でどんな困難が待っていようと、自らの目標に向かって「一歩ずつ」、つまり「パッソ・ア・パッソ」の精神で立ち向かっていくべきだと思います。そうすれば、必ず道が切り拓ける、そう私は信じています。

一度しかない人生、揺るぎない信念を持って突き進む、それが人生の醍醐味ではないでしょうか。



教員採用試験体験記

白石もなみ（平成18年度文学部日本語日本文学科卒業）

三度目の正直？いやいやもっとシンプルに、奇跡。真面目に教員を目指して日々努力しているみなさんの参考にはならないかもしれませんが、あくまでも一例として読んでいただけたら幸いです。

私が受験したのは、三度とも群馬県の公立高校教員の採用試験。一次試験では「一般教養＋教職教養（マーク式）」「専門教養（現代文・古文・漢文、すべて記述式）」「小論文（全教科共通、800字）」が1日で行われ、二次試験では「適性検査」「面接×2回」「集団討論」が2日かけて行われます。合格発表は10月上旬で、希望すれば全員、自分のランクを開示してもらえます。

【一年目】

大学四年生。→一次試験不合格。

臨時採用職員募集要項が通知と共に送られてきたので、すぐに登録。履歴書を送るだけで、登録時の面接等はありませんでした。3月下旬にようやくお話を頂き、面接。結果的に2校で非常勤講師をつとめることに。

【二年目】

非常勤講師一年目。少し勉強時間が増える。組合主催の勉強会にも時々参加して傾向や対策を指導していただきました。→二次試験不合格。

昨年度と同じように臨採職員登録をして、やはり3月下旬に当時の勤務校から継続のお話を頂きました。

【三年目】

非常勤講師二年目。学校に慣れ、時間の調整が上手くできるようになったため勉強時間は過去最高に。この勉強時間の確保という点では、常勤より非常勤の方が圧倒的に有利だと思います。もちろん常勤講師にはお給料や経験の面でのメリットもありますので、どちらが良いか一概には言えませんが、勉強会にも引き続き参加しました。→ようやく合格！

現在は10月から病休補助のお話を頂き、ふたたび二校同時の非常勤講師生活を送っています。

【勉強方法】

何を置いてもまずは過去問です。自治体ごとに必ず特色があるはずなので、その問題の形式や傾向に慣れるためにも、必ず一度は10

年分解いてみる。予備校に通っていなかった私は、正直言うと一般教養と教職教養に関しては、過去問を解くこととそこから派生したことがらを調べてまとめたノートを作ることしかしていません。しかしこの「勉強した証」はかなり役に立つもので、試験の休み時間中に眺めているだけで大分落ち着きました。

専門教養も過去問制覇が基本ですが、こちらは国公立の二次対策の参考書を購入し、要約や要点整理などの練習もしました。一般的に大学受験と同じレベルの問題が出ると言われていますが、私個人の感想としては、大学受験レベルの知識を持っていることを前提に、それを使って何を生み出せるのか、一歩先まで求められているという印象でした。特に国語では各教材に当たる柔軟性と応用力が必要です。対策としてはよく言われることですが「本を読む」。そしてそれを自分の肥やしにする。これは試験の対策にも教員になってからも必要な習慣だと思います。

小論文に関しては初年度からそれなりの評価を頂いていたことと短いものであることから、特に対策は行っていませんでした。形式は、数行の短いエピソードを読んでそれと教育を関連づけた自分の意見を書かせるものです。

面接も「変に小慣れた受け答えをしったり用意されたようなスゴイ意見を言ったりするより、元気で素直な人間性と教育に対する情熱をアピールできれば大丈夫！」という情報を元気で素直に鵜呑みにしたため、対策らしい対策は行いませんでした。少し後悔しています。

集団討論も「同席者の話をよく聴く」「メモを取る」「たくさん喋る（これは試験官の好みもあるので、敬遠される場合もある）」を心がけたくらいで、慣れない雰囲気終始緊張しっぱなしでした。

【さいごに】

あらためてこんな態度でよく受かったものだと、恥ずかしい限りです。これからも受験時に負けないくらい、いやそれ以上の勉強と努力が必要だと痛感しています。来年以降は不況のあおりを受けてまた教員採用試験も受験者の増加が見込まれているそうですが、倍率が上がったからといって、努力した人、情熱を持った人が採用されることに変わりはありません。ぜひ教員を目指して頑張ってください！

教員採用試験体験記

文学部英語英米文学科4年 福嶋 由香里

私が教員になりたいと強く思うようになったのは教育実習を終えてからでした。それまで教育に興味はあったもののただ漠然と教職課程を取り、就職活動もしていたのですが教育実習を通して学校教育に関わりたいという思いを明確にすることができました。大学1年から採用試験の準備をしてきたという話も聞きますが、私が準備を始めたのは大学3年の春休みですので諦めずに挑戦してほしいと思います。

私が受験したのは埼玉県採用試験です。1次試験に専門教養、一般・教職教養、集団面接を、2次試験に小論文、場面指導、模擬授業が行われます。筆記試験は問題集をとにかく繰り返し解きました。解答時間や出題傾向は教員養成セミナーでも確認できます。場面指導は生徒指導の技術が問われます。私の課題は「夜遅くまで友人の家に遊びに行っている生徒がいる」ことを帰りの会でどう指導するか、というものでした。課題はその場で渡されるので考えている時間はほとんどありません。普段からどのように生徒を育てたいのかを明確にしておくといいと思います。私は本格的に準備を始めたのが遅かったこともあり、特に面接や小論文の実践的な対策はほとんど出来ませんでした。そこでノートに自分の考えをまとめましたが、それだけでなく大学の先生や先輩に面接や小論文の添削をお

願いできるといいと思います。

埼玉県では毎年5月上旬に教員募集説明会があります。試験についてのパンフレットが配布され、現役の校長先生方のお話も聞ける貴重な機会ですので受験を考えている方はぜひ参加してみてください。また埼玉県以外の自治体でも説明会を開いているところもあるので各教育委員会のホームページなどで確認してみてください。

特に2次試験ではすでに教育現場を経験している受験者の方も多くいらっしゃいます。集団面接での応え方などを聞き、私はすっかり自信を失ってしまいました。しかし試験を終えて私が感じたのは、技術だけが求められているわけではないということです。実際に教壇に立たれている方に技術が敵うわけがありません。今の自分に何が出来るか、これからどんな努力が出来るのかを明確にし、自信を持って臨んでください。

私は現在「教員インターンシップ事業」のため地元の中学校で活動しています。活動内容は授業や部活動への参加など教育実習と重なることもありますが、まわりの先生もより厳しく指導してくださいます。4月に自信を持って教壇に立てようたくさんのことを吸収していきたいと思います。皆さんも未来の先生を目指して頑張ってください。



「教員インターンシップ事業」のため地元の中学校で活動しています。

教員採用試験体験記

経済学部経済学科4年 宮川 祐一

はじめに

私は、この度平成21年度の千葉県・千葉市の公立学校採用試験候補者選考に現役で無事に合格することができました。皆さんもご存知のとおり、教員採用試験は現在では倍率が以前より下がったとは言えども、依然として倍率が高いことには変わりはありません（私が受験した千葉県・千葉市の中高・社会科は約9倍）でしたので、私も採用されるまでに三ヵ年計画を立てていたのですが、現役で合格できたので自分でも驚いています。

そんな私の体験記ですので、それほどまでに参考にならないかもしれませんが、教員採用を目指される皆さんの何かしらの役に立つことが出来れば幸いです。

志望理由について

教員を志望している皆さんには、なぜ教師になりたいのか、という理由が少なからずあると思います。私の場合は、中学校3年生時に公民を教えていただいた社会科の先生と、高校2年生時に担任をしていただいた数学科の先生のお二人に大変お世話になり、憧れをもったことが教員を志望する理由になりました。私のように今までに会った先生方に憧れて教師を目指すという方は多いかと思います。また、その他にも多くの理由があると思います。

しかし、教員採用試験を受験するに当たって今一度、志望理由について考え直す必要があると気付きました。なぜかと言うと、教員採用試験（特に面接）では教師になった際にどのようなことをしたいかということをよく聞かれるからです。これは一般企業の就職活動でも同様ですが、これまでの経験・知識・資格等を活かして、この先どのようなことがしたいのかということを面接では具体的に聞かれます。ですので、志望理由を確固たるものにするためには将来的なビジョンを明確にする必要があると思います。また、教員採用試験をまだ数年後にと考えている方も早いうちから将来のビジョンを考えて行動すれば、4年間という短い大学での教職課程において有意義な経験をする事ができると思います。

情報へのアンテナ

また、常に新しい情報を得ようとする心構

えも非常に重要になると思います。新聞の一般紙から教育系の新聞、スポーツ新聞、書籍、インターネット、雑誌など、情報を収集する手段が多様化している中で、多くの情報を収集し、また取捨選択していく必要があると思います。情報化社会の中で社会科の教師は情報教育を担っていく立場にあるので情報を有効活用することが出来るようになるのは重要だからです。また、教育の現状は日々変化していますので、教員採用試験においても教育時事等には十分な対策が必要になります。ですので、情報へのアンテナはしっかりと張っておく必要があると思います。

生きる力

現在の学校教育に携わるものとして避けては通れない言葉が『生きる力』です。それは学力観にも映し出されていますが、PISA型の応用力を伸ばすことが学力に関する課題の一つに挙げられています。

以上のことは教員採用試験にも大いに反映されているように感じました。一次試験の筆記では、グラフ・年表・絵画等を読み取る問題等が多々出題されました。このことは、教員採用試験においても知識だけを問うのではなく応用力が試されており、これからの教師には知識だけではなく応用力が必要なのだということを意味していると思います。ですので、試験対策だけではなく普段の大学での講義などの学習の中でも主体的に応用をしていくことが重要だと考えます。

最後に

教師にとっては日々が勉強だと、採用試験を通して改めて痛感しました。私にとってはこれからが本当の意味での勝負だと思っています。皆さんも試験対策として勉強をするのではなく、教師になるという将来を思い描きながら日々勉強することが合格への道だと思っていますので頑張ってください。そして、学生であったり履修生であったりと立場は違いますが、同じく教育に携わる者として、お互いに切磋琢磨して行きましょう。

一人でも多くの教師が、子どもたちのもとへ翔いていくことを期待しています。一緒に頑張りましょう。

教育実習を終えて（国語）

私立昭和第一学園高等学校 文学部日本語日本文学科4年 玉森 はるか

1、実習開始・生徒とのコミュニケーション

6月2日から16日間。母校である私立昭和第一学園高校で実習をさせていただきました。母校に行くのは卒業して以来の5年ぶり私が通っていた頃とは制服も変わってしまったせいか懐かしさの中に少しどこか知らないところへ来てしまったような錯覚を覚え、校舎に入るとますます緊張感が増していくばかりでした。朝のHRに向かい実際の生徒を目の前にすると、ようやく本当に自分が教育実習に来たのだと実感しました。私が担当させていただいたのは文系の3年生。教室に入ると、誰か知らない人が来たという生徒の警戒した目に「自分が緊張して引込んでしまっただけで駄目だ」と強く感じました。とにかく明るく積極的に。でないと生徒たちとの間に距離が出来てしまう。それが実習に入り、第一に学んだ事でした。

朝と帰りのHRと清掃。最初の週に教壇実習の無かった私はその時間を生徒との交流を持つよい機会だと思い、積極的に声をかけることにしました。最初のうちは警戒して話しかけても素気なかったりした生徒たちも次第に打ち解け、1週目の最後の頃になると話をするために残ってくれたり、相談事を持ちかけてくれるようになりました。

2、教壇実習の準備と実施

塾などでの教壇経験のなかった私にとって全てが手探り状態でした。幸運にも1週目を全て授業見学に充てて構わないと言っていたので、自分の受け持ちのクラスはもちろん、それ以外の同学年、他学年の国語、他教科など様々な授業を見学させていただきました。見学の際特に注意したのは、先生の言葉に対する生徒の反応でした。先生の発言に対して生徒はどんな反応を返すのか。可能な限りメモに取り、自分の事前に立てた授業内容の中にどうやったら取り入れられるのか。その作業をひたすら1週間繰り返しました。もちろん、受け持ちのクラスの授業を見学する際にはクラスの誰がどういう反応なのか、よく分かっていないのはどのあたりなのかを他のクラスを見る時よりも丁寧に見ていき、クラス全体の理解度をはじめ、生徒がどのあたりで集中が切れるのかなど細かく分析していました。

教壇実習1日目。とにかく緊張をして頭が真っ白でした。たくさん準備をしたにも関わらず、説明の順序を間違えたり、せっかく覚えた生徒の名前が出てこなかったりと失敗の多

いものでした。それでも、失敗した個所を終わった後に自分で振り返り、次に失敗しないためにはどうしたら良いのかをしっかりと考えて整理したので、2回目の授業からは失敗の数も減り、段々と自然体で授業をすることができるようになりました。ちょうど慣れてきて自分のやりたい授業が出来るようになってきた時、指導教諭の先生から「俺は教室に入らないから今日は1人でやってきなさい」と言われました。最初は戸惑いしましたが、やってみたいと思ったので、頑張りますとだけ先生に告げて教室に向かい、先生のいない教室での授業が始まりました。生徒たちも最初は戸惑っていましたが、いざ授業を始めてみると楽しそうにしていたので一安心でした。授業を外から見ていた先生にも「楽しそうに出来ていてよかった」と褒めていただき、残りの授業も1人で頑張ってもらえたととても嬉しい言葉をいただきました。

3、実習を終えてみて

3週間というのはあっという間で最終日に生徒たちから「先生、来週もまた待ってるから」と言われた時は嬉しくて言葉になりませんでした。教育実習を通して学んだことは多く、自身の考え方にも大きな影響を与えてくれた3週間でした。このような貴重な経験をする事ができたのもたくさんの方に支えていただいたからです。貴重なアドバイスをくださった指導教官の先生、教科の先生方本当に心から感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

最後にこれから教育実習に臨む皆さんに。教育実習はとても貴重な経験の出来る場です。この機会を大切にそして全力で取り組んでください。自分が努力すればその分大きな感動や達成感を味わうことができます。どうかこの貴重な経験でより多くのことを学んでください。



教育実習を終えて（英語）

私立横浜隼人中学・高等学校 文学部英語英米文学科4年 谷角 慶太

私は、母校である横浜隼人高等学校で3週間の教育実習をさせていただきました。

初日は先生の授業の見学からはじまりました。生徒として3年間通った高校でしたが、教師という視点で物を見ようと試みると全く違った世界に見え、全てが新鮮に感じました。そして初日の最後に、先生から『明日から授業に挑戦してごらん』と言っていただきました。多くの実習生は2週間目から授業を担当するのですが、私は幸運にも2日目から授業に挑戦させていただくことができました。

そして迎えた2日目。緊張で足がガタガタ震えるのを抑えながら必死に予定通りの授業をしました。確かに計画通りには進んだ。しかし何かがおかしい。その後の反省会で、指導教諭の先生から頂いたコメントは厳しいものでした。『授業を進めることで頭がいっぱいになっている。誰も聞いてないぞ。』そしてパソコンの画面で写真を見せていただきました。それは私の授業中に先生がデジカメで撮った写真で、寝ている生徒、教科書を開いていない生徒の様子がはっきりと写っていました。生徒が参加できない授業をしてしまった。それではどうすれば生徒は授業に参加してくれるか。それが3週間を通しての課題になりました。

右も左も分からないまま、まずチャレンジしたのがペアワークでした。隣の人とペアになり1行交代で音読というスタイルです。比較的簡単だと思えるこの活動は、大学生であれば説明をすれば直に始められる活動だと思います。しかし実際に教室でやってみるとそうはいきません。『先生、机はつけるのですか』『どっちが先に読みますか。』と私の指示の足らなさを痛感させられる結果となってしまいました。それ以上に『何をすればいいのかわかりません』『聞いてませんでした』という生徒も多くいました。

指示は細かく出さなければいけないということはわかりました。しかしどのようにすれば

ば分かりやすく活動を説明できるか、という点はいくら悩んでも解決しませんでした。『生徒と教師で実際にやり、手本を見せる』という私には思ってもみなかったアイデアを指導教官から提案されました。また、『教卓から一番はなれた生徒を指名してやるといいよ』とのアドバイスも頂きましたが、こちらはその理由が分からぬまま次の授業が始まりました。さっそく手本を見せてから開始の合図を出すと予想以上にスムーズに進みました。また、教わった通り一番遠くの生徒と手本を指名した理由もわかりました。そうすることで自然とお互い、大きな手で手本を見せることになるので、教室全体を巻き込むダイナミックな手本を見せることができました。生徒全員が私達の手本に注目し、自分たちもやってみようと進んで取り組んでくれました。その姿に感激をしました。

もちろん全ての授業がうまくいったわけではなく、反省点ばかりが残る授業も多くしてしまいました。そのような授業をしてしまった時は、生徒に申し訳ない気持ちで心が痛くなりました。しかしそのような失敗が、次こそは・・・と思える原動力になっていた気がします。

教育実習は本当に寝る暇も無いほど大変です。しかし、先生方の仕事量は言うまでもなく実習生の比ではありません。改めて教師という仕事の大変さ、責任の重さを痛感した3週間でもありました。



教育実習を終えて（社会）

荏崎市立荏崎西中学校 法学部法律学科4年 深澤 裕也

「先生！先生!!」自分が先生と呼ばれることが不思議で、この時の私は、今まで生きてきた人生の中で最も充実した時間を過ごすことができました。私は母校である山梨県荏崎市立荏崎西中学校で3週間実習をさせていただきました。私が担当させて頂いた教科は2年生の社会科の歴史的分野でした。実習前、私は自分が先生となって授業をするなんて想像できませんでした。実習の初日、私は緊張しながら学校へ向かいました。今から何がはじまるかわからず、すごく不安でした。しかし、その不安を生徒たちはすぐに解消してくれました。なぜなら、生徒たちは私を見るなり、挨拶をしてくれ、積極的に話し掛けてくれたからです。私がお世話になったクラスは2年1組で、男子は活発な子が多く、女子は少しおとなしいクラスでした。

最初の1週間は、授業見学や教材研究をさせていただき、2週目から本格的に授業をさせていただきました。実際に授業をしてみて私は多くのことを感じ学ぶことができました。1つの授業をつくるのがこれほどまでに大変だとは正直思いませんでした。私の場合、まず教科書を読んだ上で、この授業のねらいを考えて、導入、展開、まとめと授業の大まかな構成を考えていきました。そして、本やインターネットで内容を深く掘り下げていきました。例えば、生徒が興味・関心を持ちそうな内容の雑学や豆知識を調べてみたり、授業で使えるような資料を探したりしました。私が教科指導で学んだことは大きく分けて3つあります。

1つ目に学んだことは、導入の部分です。教育実習に行く前に、大学の先生方から、魅力ある導入をすることによって生徒が授業に積極的に参加するようになると教わっていたので、私も魅力ある導入をしようと考えていました。しかし、実際に授業をつくろうとすると、導入の部分を作るのに非常に苦労しました。生徒をいかに授業にひきつけるか私はとても悩みました。そこで、私はクイズ形式にして発問したり、面白い資料を提示したりしました。

2つ目に、教科指導で学んだことは発問の仕方です。私の場合、授業の中で発問をよく取り入れるのですが、その発問が一問一答式に

なってしまっていました。つまり、私の発問の仕方では生徒の考えていることがわからず、一方的な授業になってしまっていました。よって、私は発問の仕方を考えて、生徒の考えを追求していくように心掛けていきました。最後まで上手に発問することはできませんでしたが、生徒とともに授業を進めていく方法を学ぶことができました。

3つ目に学んだことは資料の使い方です。私は資料の使い方1つで生徒の反応が変わるということを肌で実感しました。なぜなら、研究授業のときに歴史の資料で手紙の資料があり、私はそれを資料集で生徒に確認させようと考えていました。しかし、教科指導の担当の先生が、ただ普通に資料を確認するのではなく、実際の手紙のようにつくって生徒に見せたほうがよいというアドバイスをいただき、私は半信半疑で手紙をつくりました。そして、実際に研究授業で生徒に見せたところ、生徒は驚くほど興味をせめし、積極的に授業に参加してくれました。私はこの時、資料の使い方1つで生徒の反応が変わってくることを知り、資料の大切さを学びました。

このように、私は教科指導を通して多くのことを学ぶことができました。その中でも、私が授業をする上で最も大切なことは生徒と信頼関係を築くということです。教師と生徒との間で信頼関係がなければどんなによい説明をしても生徒の耳には届きません。しかし、生徒と信頼関係が築かれていれば、難しい事柄でも生徒は聞き入れてくれると実感しました。だから、授業をするにあたって生徒と信頼関係を築いていくことが最も大切だと思いました。

私のこの体験談が少しでも皆さんのお役に立てれば幸いです。



教育実習を終えて（商業）

東京都立第一商業高等学校 商学部会計学科4年 小林 直貴

私は、母校である東京都立第一商業高等学校で5月26日から2週間、教育実習に行ってきました。母校での実習でしたので、母校以外で実習を行う方と比較すれば不安はあまりありませんでしたが、いざ実際に生徒を前にしてみるととても緊張してしまいました。

配属クラスは1年B組、女子35名のクラスです。担任（指導教諭）も女性の先生で、私ただ1人男性で正直な話、最初少しとまどいというか違和感がありました。けれども、時間が経つにつれて徐々にお互いに打ち解けることができました。普段はなかなか時間の余裕がなく、ゆっくりと話をする時間ありませんでしたが、実習期間中に行われたスポーツ大会では、生徒と一緒に応援し、会話することができ、とてもいい機会になりました。

担当した授業は、1年B組の簿記と2年生（選択）の商品と流通の2科目です。実際に授業をしてみて色々感じるがありました。中でも計画・準備、これはとても大切であると感じました。事前に学習指導案を作成することはもちろんですが、何をどのようにして生徒に伝えるのかということも重要です。例えば、簿記では補助プリントを作成し、それを使用して授業を行うと共に小テストを行い定着度の確認も行ったりしました。商品と流通では、教科書を中心としながらも、教科書の内容を適宜補いながら授業を行いました。この様に色々自分なりに工夫したつもりでも、初めて学習する生徒にとっては難しい言葉を使って説明していたり、説明の順序が悪かったり、噛み砕き方が足りなかったりしてしまい、生徒から質問の嵐になってしまったことは反省点の1つでもあります。また、時間配分も考えなくてはなりません。計画通りに進まない時、少し説明のスピードをあ

げるとか、思い切って一部分を次回送りにするなどその時々状況に応じて考えなくてはなりません。

教壇実習が終る度に、指導教諭の先生からここは良かった、ここは悪かったなどと指摘して頂いたことは大変助かりました。ご指摘頂いた点を私なりに噛み砕き次の授業、研究授業へつなげることが出来ました。

実習最終日に行った研究授業では、それまでに指導教諭の先生から色々ご指摘頂いた点を加味しながら授業を行いました。いつも以上に緊張してしまい少し説明を間違えてしまったことが反省点です。

最終日には、配属された1年B組の生徒から温かいメッセージの書かれた寄せ書きを頂きました。一人一人のメッセージを読むと2週間、正直色々と苦労したこともあったけれど教育実習をやってよかったと感じました。こうやって教育実習が出来たのも、手取り足取り指導して下さった指導教諭の先生を始め、色々支えて下さった他の教職員の方々、また私のつたない授業を聞いてくれた生徒の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

最後に、これから教育実習を迎える皆さん。私自身は実習期間が2週間でしたので何ともいえませんが、教育実習の期間は長いようで短いものです。私自身、睡眠時間を削りながら夜遅くまで授業の準備をしました。それだけ時間をかけても、なかなか思うように授業をすることが出来ませんでした。けれども、教育実習は苦労だけではありません、良い思い出も沢山出来るはずです。将来、教員を目指す人だけでなくそうでない人にとっても良い経験になるはずです。頑張ってください。

教育実習を終えて（情報）

東京都立小川高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 麻生 竜太郎

2008年5月25日、実習前日。かつて慣れ親しんだ校舎に実習生として戻る不安と期待を抱いていたのを今でも覚えています。お世話になった先生もほとんど転任され、自分たちの高校時代と変わっていないのは校舎だけという不思議な感覚を肌で感じながら実習は始まりました。

与えられたテーマは名刺作成

教壇実習で行なった授業は「名刺作成実習」でした。

名刺作成というテーマが与えられたとき、ただ「名刺を作って終わり」にはしたくなかったため、ふたつの要素を授業に盛り込むことを考えました。

ひとつは名刺に関する知識を身に付けてもらおうということ。コミュニケーションツールであること、名刺のデザインには伝えるためのルールがあるということ、名刺の個人情報の危険性など、91×55mmという紙片に込められた意味を考えてもらいたかった。ふたつめは、今回の作成作業が名刺を作るためだけのものではないことに気づいてもらうことでした。アイデア次第で名刺以外のさまざまなものを作ることができるということを知ってほしかったのです。

何を伝えたいかを明確にすることによって、授業の大まかな流れは自然と決まっていきました。

授業をつくる

知識も技術も経験も、なにもかかが足りていない教育実習生が授業を計画し、円滑に展開するのは非常に困難だといえます。そのため授業の準備は特に念入りに進めました。

指導案や教材の作成だけが準備というわけではありません。毎日の授業見学や生徒たちとのコミュニケーションも、授業をうまく進めるためのヒントになりました。

たとえば普段の生活や授業風景から、生徒たちがどんなことに興味を持つのかが見えてきます。その関心の対象はクラスの性格によってもそれぞれ異なり、先生はそれに対応して授業の展開を微妙に変化させています。

先生方の授業のタイムラインの組み方も、自分の授業を構成する上で参考になりました。

特に、実習の作業時間の設定をしなければならぬ教科情報では、生徒たちのPC操作レベルを考慮して時間配分する必要があります。普段の授業のなかで実習がどのように進められているかを分刻みに細かく見ていくことで、自分が行なう教壇実習の構成も組みやすくなりました。

教育実習生にとっては、実習期間中のすべての時間が教壇授業のヒントとなります。

「臨機応変」を準備する

実際に教壇に立って授業をするためには、授業の構成を考え、指導案を作成するなどの準備が欠かせません。しかし、どんなに綿密な計画を立てたとしても、不測の事態は起こりうるのです。教科情報の実習は、PCの不具合の発生や生徒の操作スキルの差などによって授業の進行が遅延することはよく起こる事態です。逆に作業が思いのほかスムーズに進んでしまい、想定していた時間よりも早く授業内容を終えてしまうこともあります。

授業の流れを考える際に重要視したのは、できるだけあらゆる事態を想定して授業展開をつくるということでした。もし作業が進みすぎて時間が余った場合に何をするか、逆に時間が足りなくなりそうになったとき、どこで授業を終えるか。様々なパターンを想定し、臨機応変に授業を進められるように準備しました。

こういった準備によって、教壇実習では、大成功とまで言えなくとも、想定外の事態が致命的なミスには繋がらない安定した授業を行なうことができたと思います。

教育実習を終えて

3週間という限られた時間のなか、体育祭や文化祭準備などを通して生徒と打ち解けていきました。教壇実習や生徒とのコミュニケーションを通して、教育実習は当初の予想より自分に大きな影響を与えてくれるようになっていました。

教育実習は、「教師」という選択肢が自分の将来に本当に当てはまるかどうかを見極める試金石の期間だと思います。これから教育実習に臨む方は、ぜひ、有意義な実習を行なってきたください。

教育実習を終えて（数学）

私立西武学園文理高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 栗城 拓哉

私は、埼玉県にある私立西武学園文理高等学校で3週間教育実習を行いました。小学校の頃から“教師”を目指していたこともあり、自分が一番得意であり、好きな数学で教師になりたいと思うようになりました。

私が受け持ったクラスは、Tクラスと呼ばれるクラスの第1学年で、東大や国立の医学部など目指している生徒が多いクラスでした。また、Aクラス（普通科）の授業も指導教官の先生が持っていたため、Tクラスを2クラス、Aクラスを2クラス持つことになりました。しかし、実際にはTクラスは授業の進度が速い上に、Aクラスとも既にやっている範囲が違ったこともあり、実際に授業を行うのはAクラスだけになりました。

教育実習が始まるまでは期待と不安でいっぱいでした。しかし、教育実習が始まるとそんなことを考える暇もないくらい忙しくて、それでも楽しくて充実した毎日を送ることができました。

教育実習では実習5日目まで授業見学を行い、6日目から授業を行いました。しゃべり方や声の大きさ、板書計画などたくさんの事を勉強させていただきました。また、ひとつの授業を行うために多くの苦勞をしていることがわかり、教師という職業がどれほど大変なのかを知りました。前日には、板書計画の確認や、指導教官の先生を相手に模擬授業を行ったり、時間がいくらあっても足りない状況でした。実際の授業では準備をどれだけ多く行っても、授業を行ってみると教えられるのは少ししかなく、準備がどれだけできるかで良し悪しがきまってくるものだと感じました。また、せっかく模擬授業で注意されたことを直そうと思っていても、声の強弱だったり、話し方というのはすぐに変えることができませんでした。実際に行いたかった授業範囲も終わらせることが出来ませんでした。授業を行ってみると、生徒とのやりとりや生徒の様子など、クラスによって進むペースが変わるため計画したとおりに授業を行なう事が難しかったためです。柔軟に対応していくことが必要だと思いました。

一度自分の授業を見たほうが良いということで、ビデオを撮ってもらいました。その後

見て深く反省。一回見たほうが絶対いいと思いました。どういう風にダメなのかがよくわかります。感覚的にわかるのとは全然違うので、見るのは嫌だったけどよかったと思います。

コミュニケーションは最初のほうあまりとることができませんでした。高校が教育実習の場となったのも一つの理由になると思います。給食がないので、そのクラスで話すのは授業前や、ホームルームの時だけだったので、あまり時間をとることができませんでした。なので、授業が始まる少し前に行ったり、放課後残って話したりすることで、だんだんと話す時間が増やせてきました。ただ、自分が高校生だったら、授業前に教師がいるって嫌だと感じたりしました。しかし、話しかけてくれたりしたので大丈夫だと思います。しかし、ホームルームクラス以外ではそこまで仲良くなることはできませんでした。授業を行っているので、終わった後に質問に来てくれる生徒もいましたが、全員と話すことはできませんでした。生徒とコミュニケーションをとるには、どれだけ話す時間が作れるかだと思います。掃除の時間に話しかけたり、なるべく質問したりすることで、変わるものだと思います。

これから教育実習を行う皆さんはとにかく楽しんでほしいと思います。生徒たちと仲良くなることで、実習は楽しくなっていくし、また授業を行うときもいい雰囲気です。授業が出来るようになります。楽しむだけでは、意味はなくなってしまうかもしれませんが、まず楽しむことが最初の仕事になると思います。大変だとは思いますががんばってください。



教育実習を終えて（小学校）

銚子市立椎柴小学校 文学部人文学科4年 宮内 美穂

1. はじめに

私は、出身校である銚子市立椎柴小学校で2週間の実習をさせていただきました。受け持ったクラスは2年生で、とても明るく元気のある子どもたちでした。短い間でしたが、子どもたちと一緒に勉強、遊び、運動に勤しむことができました。

2. 子どもとのかかわり

私は、今回の実習で初めて、小学生と関わる経験をしました。そのなかで、次のようなことを学びました。

1つは、子どもとの打ち解け方。私は、実習が2週間という短い期間での実習であったため、早く子どもたちと打ち解ける必要がありました。そこで、実習初日からいろいろと試みて、子どもとの距離を縮めるもっとも有効な方法は、「名前を1日で覚えること」「一緒に遊ぶこと」の2つだとわかりました。名前を呼んでから会話をするだけで、子どもとの距離感がぐっと縮まるのを、今回の実習で体験することができました。また、子どもたちの遊びに加えてもらうことで一体感を感じることができ、早く仲良くなることができました。

2つめは、子どもたちの伸ばし方です。子どもを成長させるために一番効果的な方法は、褒めることだと実習から学びました。1人の子どもを褒めることでほかの子どもたちにも良い刺激を与え、周りの子どもも成長させることができると感じました。褒める方法は、様々なものがありました。なかでも叱ることと組み合わせた方法は効果的であると痛感しました。子どもたちは、注意を受けるとすぐに意識をして動き、改善されました。そのあと、先生はその日のうちに注意したことが改善されたことを褒めていました。注意をしてもそのあとに、子どもたちの気持ちがあがるようにしてあげることが大切だと教えていただきました。

3. 授業での学び

2週間の実習中、私は各学年の授業を参観させていただきました。そこから私は、小学校では幅広い年齢層の子どもたちの発達段階に合わせた授業を展開しなければならないことに気づきました。低学年では、細かく指示をして授業の形をしっかりと子どもたちに提示して取り組まなければならないこと、中学年では、周りを意識して動けるよう配慮しなければならないこと、そして高学年では、自分で考えて行動できるよう、十分に考える時間をとることなどを学びました。

また自分自身が授業をしてみても気づいたこともたくさんありました。私は、小学生を対象に授業をするのは初めてで、2年生にわか

る説明の仕方がつかめず苦労しました。授業回数を重ねるうちに、説明をする際は手本を見せること、実物を用いることなど、より具体的に教えることが重要だと気づきました。細かく指示を出して子どもたちが安心して学習できる状態を作る重要性を学びました。

4. 教師の抱える仕事

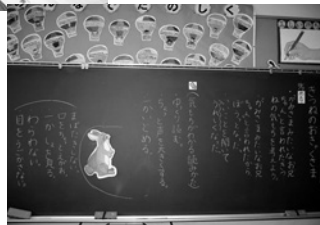
先生の仕事は、子どもを教育することです。しかし実際は、教師には授業以外の仕事もたくさんあると今回の実習で知ることができました。

私が実習をさせていただいた期間は、前期の最後の2週間だったため、成績処理の時期でした。児童の学習状況を評価する難しさ、データ管理の重要性、成績を本人や保護者に手渡すまでの苦労を間近で見せていただき、教員に求められる資質を実感しました。学校の先生は、子どもたちを「教育」するだけでなく、それに伴う「事務」も膨大にあることを知りました。膨大にある仕事に優先順位をつけ、的確にこなしていく力をつけなければならないと感じました。

5. 教師という仕事

今回の2週間の実習を通して、教師に求められる力量と私の力量との差を知ることができました。子どもを教育する大変さを思い知らされました。しかし、その大変さ以上の喜びを子どもたちは与えてくれます。実習最終日、クラスの子ども一人ひとりから手紙をもらいました。そのなかに「勉強が楽しくなりました。」「授業中、手があげられるようになりました。」と書いてあるものがありました。これを読んだとき、全ての苦労は吹き飛びました。教師は、人が成長していく手助けができるすばらしい職業であると心から思いました。

教育実習は、本当に大変です。しかし、子どもたちがその苦労を一瞬で忘れさせてくれます。子どもたちと一緒に、楽しみながら多くのことを学んでください。



介護等の体験を終えて

文学部人文学科4年 小泉 実穂 文学部人文学科4年 新田 加奈

私たちは介護等の体験で、川崎市立養護学校に2日間、特別養護老人ホーム柿生アルナ園に5日間お世話になりました。私たちは、日頃から障害を持った子どもたちと接する機会がなく、また特別支援学校の雰囲気も分かっていなかったため、実習前、夏休みのボランティア活動に参加しました。そこで初めて子どもたちの障害の程度や実態、また先生方と保護者の連携や協力する姿勢を知ることができました。そのため、実習ではその経験を踏まえ、目標や目的を持って取り組むことができました。

養護学校の実習は授業と部活動に参加して、一人の生徒の担当になり、1日共に活動しました。1日目は分からないことばかりで、何をしたらいいのか、どのように信頼関係を築けばいいのかも分からぬまま終わってしまいました。しかし2日目は1日目の反省を生かし行動しました。また生徒も徐々に慣れ、心を開いてきてくれたのを感じることができました。私たちは、どう接したらいいかということばかりを考えてしまいましたが、生徒は素直に気持ちを伝えてくれ、行動に示してくれました。言葉が通じなくても、愛情やその子を思いやる気持ちを持って接すれば、生徒と心でつながることができるということに気がされました。学ぶことが非常に多く、あっという間の2日間でした。

特別養護老人ホームの実習では、長期ステイ、短期ステイ、デイサービス、訪問介護な

どさまざまな種類があることを知りました。ただ単に介護をするだけでなく、一人一人のニーズに合わせた支援を提供していることと同時に、ヘルパーの方々の気の使い方や接し方など大変さも学ぶことができました。現在、高齢化が進む中、老人ホームを中心に、地域全体で、どのように高齢者を支えていくかを考える包括会議にも参加させていただき、貴重な体験をすることが出来ました。さらに、普段何気なく過ごしていると気付きませんでしたが、支援を必要としている高齢者が非常に多いことと、老人ホームに入れず待機している人がたくさんいるということを知りました。高齢者の数に対して、介護士の数が不足している現状を知り、今後さらに少子高齢化が進むことを考えると社会全体での取り組みが必要になります。そのため学校教育で高齢化社会に対する知識や理解を深め、どのように対応していくか考えさせることが必要になると思いました。

7日間の介護等の体験を終え、多くの体験ができたとともに、初めて学ぶことや考えさせられることがたくさんありました。私たちがこれらの体験を通して思ったことは、目的意識や責任感を持って取り組むこと、指示を待って行動するのではなく、自分から進んで動くことが重要だということです。

これから介護等体験を行う方々は、この実習で多くのことを学び、さらに自分自身が成長できる、よい機会になるよう頑張ってください。



小学校教員免許取得レポート

文学部人文学科4年 谷口 和輝

「小学校教師になりたい！」

私がこう決意したのは、大学2年生の夏でした。何とか在学中に資格がとれないか自分で調べ、『小学校教員資格認定試験』という制度を見つけました。ところが、その合格率は極めて低く悩んでいたところ、専修大学でこの「小学校教員養成特別プログラム」が翌年度から始まることを知りました。選考を経て、2年間で小学校2種の免許を取得する『道』がスタートします。

1期生として、4名でスタートしたこのプログラムは、初めての連続で戸惑うことが多くありました。専修大学で受講している授業とは異なり、全て自分で計画し、学習を進めていかなければなりません。その中で、仲間の存在は大きく、お互いに助け合いながら単位修得に励みました。教職の先生方や、教務の方にも気にかけていただき、困ったときには気兼ねなく相談することができました。もちろん、家族の支えも大きかったです。今思えば、多くの方々の支えがあって、免許を取得できています。周囲の人々への『感謝』の気持ちを忘れないようにしたいです。

通信教育では、テキストと向き合う勉強がそのほとんどを占めます。その中で、玉川大学で授業を受けるスクーリングでの経験は、とても新鮮でした。特に、初めて受講したスクーリングの「音楽科指導法」では、何十曲も合唱をし、手遊びも数多く教えていただきました。自分が『経験・体験』することで、「生きた指導法」を身につけることができます。このような『経験・体験』で学んだことを生

かし、子どもたちに多くのことを伝えていきたいと思います。

言葉で言い表せない気持ちになることは今までも多くあります。教育実習では、そんな気持ちになりました。小学校の実習最終日に、全校の前であいさつをしました。その時に、担当していた2年生の女の子は、目をこすりながらも話を聞いてくれています。いつもなら連絡ノートも最後に持ってくる少しやんちゃな男の子も、「先生早く見て！」と、その日は一番に持ってきました。実習中に見た字の中で一番丁寧でした。その後の、帰りの会でも全員が真剣に話を聞いてくれました。たった2週間で私は子どもたちに何かできたのだろうか。最後のお別れで思いを言葉にできない歯がゆさを、とても実感しました。2年生の子どもたちに私の思いを伝えることは、実習中とても苦労したことの一つです。『言葉』の大切さを改めて実感した教育実習となりました。

『感謝』の気持ち、『経験・体験』から学ぶ、『言葉』の大切さ。この3つが、小学校教員の資格を取得するうえで学んだことです。免許取得の『道』はこの専修大学を卒業することがゴールです。しかし、また新たな教員としての『道』のスタート地点でもあります。専修大学で学んだことを財産にして、時に道しるべにして、新たな『道』を歩んでいきたいと思っています。

同じように教師としての『道』を歩もうとしている皆さん、たくさんの経験・体験から教師の魅力を見つけ、自らの『道』を切り開いていってください。



教科研修生体験レポート

神奈川県立港北高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科3年 岩谷 結

私は2008年9月から毎週木曜日、神奈川県立港北高等学校にて情報科の教科研修を行っています。教科研修に行きたいと感じたきっかけは、教職科目である情報科教育論を履修していた際、年間指導計画や単元指導案を作成しているうちに、自身の中の「情報科の授業」は、以前に生徒として受けていた、ぼんやりとしたイメージしか持っていないことに気づいたときでした。具体的な単元指導案を作成する上で、どうしても生徒観や授業の雰囲気や流れが掴みづらいついていていた私は、研修に行き実際の教育の現場に触れることで、学べるものがあるのではないかと考えたこと、また「先生」でも「生徒」でもない立場から一度授業に触れてみたいと強く感じたことから、研修生の希望届を提出しました。

研修が始まった初日は、とにかく実際の授業に参加できていることに非常に興奮していました。授業の流れはもちろん、先生の発問内容やそれに対する生徒の回答、教室の雰囲気等を自身の肌で感じることができるところ。研修、というよりも、毎週授業の観察を繰り返しているような状態でした。生徒がどのように躓いているのか、どこで引っかかってしまうのか。もしも授業に集中できていない・寝てしまっているのであれば、その原因はどこにあるのか。もし自分自身がこの場で授業ができるのであれば、どのような展開にするのか。そんなことを考えながら、ひたすらに毎週観察を続けていました。最初は生徒の様子を見ることに気を取られていてなかなか授業の全体を把握することはできなかったものの、段々と先生方が授業の導入やまとめをどのように行っているのか、指導の際にどのような工夫をしているのかを見ることが増えていきました。具体的な生徒のイメージ、授業のイメージを持ち始めた頃には、生徒のことを意識した指導案を作成できるようになっていました。特に、生徒が引っかかりやすい細かな点（情報科であれば、例えばソフトウェアを起動する指示を出す際にどれくらいの速度で説明すると生徒の大半がついてこられるのか等）を意識しやすくなったように思います。

逆に研修をしていて痛感したことは、自身の知識の浅さでした。学部柄、ある程度の知識は持っているだろうと思っていたのですが、実際の現場に立って生徒からの質問を受けると、答えに詰まってしまうことが何度かあり、持っている知識の不足具合を感じまし

た。また、質問に回答できる場合でも、高校生からの視点と、自身からの視点の違いをどう受け入れていくのかに悩まされることもありました。今現在の私が「あまりしたくないこと」だとしても、高校生にとっては「新鮮でやってみたいこと」であることが多いため、その間のギャップをどう埋めていくのかは日々考えさせられました。

情報科の授業は、その多くが実習となっている場合が多いです。そして9割方、コンピュータ室での授業になっています。コンピュータ室に来て、PCの電源は入れない座学の授業もありましたが、ほとんどの授業において、生徒はPCと向かい合っの授業になっています。これでは先生とのコミュニケーションがあまり取れないのではないかと感じるかもしれませんが、そんなことは全くなく、むしろ「操作が上手くできない」、「作った作品を見てほしい」等、そういったことで生徒とたくさん接する機会があります。ここ最近の研修では、机間指導をすることが多くなりましたが、そこで生徒の顔を見て、言葉がなくなるとも作品を見て笑合ったり、質問と一緒に考えたりすることが非常に楽しいです。実際今では、生徒の顔を見て、その生徒が躓いているかどうか、躓いているとすればどの点かを大まかに感じることができるようになりました。「どうしましたか？」と声をかけると、一瞬救われたような表情を浮かべる生徒の姿を見ると、研修に来てよかったと感じます。こういった経験の場を頂き、研修をする上で毎週必ず何かを得て帰って来られることが、非常に幸せだと思っています。今では生徒から「大学生の先生」という呼び方をされていますが、いつかそうではなく、「先生」と呼ばれることができればいいなと感じています。



教科研修教室

学校教育ボランティア体験レポート

経済学部国際経済学科4年 樋口 絢子

1 はじめに

「樋口先生、次はいつ来てくれるの」1人の子どもが、私にいつも問いかけます。「いつも本当に助かるよ」先生方が私にいつも声をかけてくれます。私は、これらの言葉を聞くたびに、また次も頑張ろうと決意していました。小学校までは、家から3時間弱かかるために、毎週通うことは容易ではありませんでした。けれど、それが苦と感じることはありませんでした。それは、子どもたちや先生方に会うことがとても充実したものであり、楽しみであったからだだと思います。だからこそ、一年以上続けることができました。

今回は、教育ボランティアの活動内容や体験から学んだことを紹介したいと思います。少しでも参考になれば幸いです。

2 学校教育ボランティアの活動内容

「教育ボランティア」と聞いても、どのようなことをするのか、イメージすることが難しいと思います。私も、はじめは何をするのか全くわからずにいました。ここでは、教育ボランティアではどのような活動をするのか、私自身の体験から紹介していきたいと思います。

まず、大きな役割としては、担任の先生のアシスタントとして、クラスでサポートをします。学校から指示されたクラスへ行き、授業についていけない子や集中のできない子への個別指導をします。特に、算数での指導が多いです。また、担任の先生の手が届かない部分などをサポートします。1クラスの人数は30人程度ですが、担任の先生が一人でクラス全員を見ることはとても大変です。休み時間には、子どもたちと元気に遊び、お昼には給食を一緒に楽しく食べます。

ときには、社会科見学などで学外の授業に同行させてもらうこともあります。生田緑地へ行き、子どもたちとプラネタリウムを見る機会がありましたが、とても良い思い出となりました。

3 ボランティア体験から学んだこと

では、以上のような活動から学んだことについて少しお話をさせていただきます。小学校では、担任の先生が授業をしていく中で、周りの子のペースについていけない子どもがいます。私のようなボランティアは、主にこのような子どもたちが授業へついていけるようにサポートをするのですが、ボランティアがサポートをしたからといって、すぐに授業についていけるようにはなりません。サポー

トが上手いかわず、その子どもがパニックを起こしてしまうこともありました。

そこで、担任の先生やボランティア担当の先生にそのような状況を相談したところ、その子どもができる範囲で進めてい

けばよいということを教えていただきました。つまり、達成すべきゴールポイントは個々に違ってよいということでした。

私はそれから「個を知ることの大切さ」を実感しています。個によって、得意なことや苦手なことがあります。個をよく知り、できる部分を伸ばしてあげることが大切だと学びました。

4 むすびにかえて

私は平成21年度の教員採用試験を受験しました。採用試験では、知識を問う筆記試験だけではなく、教育の実践に関わる小論文・面接・場面指導・模擬授業がありました。これらは、教師となったら自分はどのように行動するのかなどが主に問われます。それを考える基礎となったのが、このボランティア体験でした。ボランティア体験で実際に学校の現場を見ているので、自分の体験からどのようにしたらよいか答えを導くことができました。

またそれ以上に、ボランティア体験を通して子どもたちや先生方との出会えたことが、何よりももの宝となりました。ここには書ききれないほど、多くのことを学ばせてもらいました。この出会いを大切に、これからも教育に携わっていきたいです。



教職公開講座参加レポート

商学部マーケティング学科3年 三田 崇

「教職課程を履修した理由」をすぐに答えることができる人は、どのくらいいるでしょうか。1年次であれば、履修した目的が明確かもしれません。しかし2年次、3年次と学年が上がるにつれて、教職課程を履修した当初の目的を忘れてしまいがちです。それは「職業」というものを真剣に考えなくてはいけなくなることや、周りの友人が就職活動の話をする際に感じる「焦り」などが原因として挙げられます。また学年が上がるにつれて教職課程履修者が減ってしまうことも、気持ちが揺れる原因でしょう。

このように学年が上がるにつれて気持ちに迷いが生じてしまいがちですが、その際にもう一度目的を振り返り、再確認できる場となるのが「教職公開講座」です。なぜなら教職公開講座では専修大学の卒業生であり、現役教師として教壇に立っている方々が、教師という職業のやりがいや苦労について講義を下さるためです。実際に教育現場で働かれている方々のお話であるため「教師の仕事とは何か」や「大変で忙しい中でも続けている理由」など私達が疑問に抱いていることを、実際の体験に基づいて話していただきました。また教師となるために学生時代をどう過ごすかという「教員採用試験に向けた対策」について教えていただけることも、この講座の大きな特徴と言えます。私達は教員採用試験に合格することは難しいとよく耳にしますが、講義をしてくださる方々はその試験に合格されています。合格するために取られた対策は先生によって異なりますが、「必ず教師になりたい」と思い続けていた点は共通していると感じました。またそのように苦勞をして教師になった方々はとても輝いて見え、お話を聞いている私達も「教師になりたい」と素直に思うことが出来ました。さらにこの講座では現役教師の方に直接質問が出来る時間が設けられており、講座終了後には軽食を取りながら気軽に質問をすることもできます。このような時間を通して、現在抱えている不安や迷いをぶつけることにより、なぜ教職課程を履修しようと思ったかという「当初の目的」を再確認することができるのです。私達がぶつ

けた質問に対して熱意を持って返答していただけることも、再確認できる大きな要因と言えます。

現在教職課程を履修している学生で、少しでも「教師となることへの不安」を抱いているのであれば、積極的に教職公開講座へ参加すべきです。この講座に学年は関係ありません。今回の講座にも1年生が数人参加していました。この講座へ参加する時期が早ければ早い程、明確な目的を持って授業に臨めると言えるでしょう。しかし参加する以上は「参加すれば良い」という受け身の姿勢ではありません。自ら何かを吸収しようという姿勢が必要なのです。

私はこの教職公開講座に参加し、改めて教師を目指そうと思うことが出来ました。その一つは上記のように講義をして下さった現役教師の方々の熱意が伝わってきたためです。そしてもう一つの大きな理由は、同じ教職課程を履修する仲間と励まし合えたことです。同じ目標を持つ学生がどのような気持ちで履修をしているのか、どうして教師を目指そうと思ったかなどを話し合え、意見を共有することができました。このように様々な人の意見を聞いたことが私の刺激となり、一度民間企業で働いた後、教師を目指すという私なりの結論を出すことが出来ました。これは他の学生とは異なっており、容易なことではないと思いますが、決意した以上はこの目標に向けて頑張ろうと思います。現在教職課程を履修している学生は是非教職公開講座に参加し、自分なりの結論を出せるように頑張ってください。



教員採用試験対策講座について

科目等履修生（平成16年度商学部商業学科卒）林 潔明

本講座は、教員採用一次試験における、教職教養科目（教育史・教育法規・教育心理・教育原理）及び一般教養科目（自然科学・人文科学・社会科学）に加え、論作文、面接対応等の能力を養う講座です。

一年を通じ、生田キャンパスでの受講となり、毎週土曜日に行われ、1日1コマ3時間が基本の受講スタイルとなります。生田での講座ですが法学部の学生や二部の学生、さらには本学卒業の科目等履修生も受講可能です。二部の学生は土曜日の講義が多いことから、受講は少々困難かと思われますが、単位履修の組み方で調整できると思います。また受講金額については、受講料に教材費を加えて約10万円と、予備校へ通うよりはリーズナブルな金額です。

講座のカリキュラムは、ポイントとなる基礎知識の習得を目的とする「基礎講座」が30コマ（内訳は教職教養：16コマ、一般教養：13コマ、論作文：1コマ）となっており、習得した基礎知識を応用し、過去・予想問題等の演習を実施し、本試験レベルの学力をつける「演習講座」が15コマ（内訳は教職教養演習：7コマ、一般教養演習：5コマ、教育時事：1コマ、論作文演習：1コマ、面接対策：1コマ）の計45コマが予定されています。また、やむを得ず欠席する場合は、休んだ日の講義内容をエクステンションセンターにてカセットテープへ録音することが可能です。

さて、肝心の講義についてですが、教職を目指される皆さまなら周知の通り、教員採用試験の出題傾向は各自治体によって異なります。この講座の講師は、その点に着目し、それぞれの自治体における出題傾向の強い問題を抜粋し、その後の勉強をより効率的なものにしてくれます。特に本学の学生が心配するのは、数学や理科が入る自然科学科目なのではないでしょうか。かくいう私も苦手意識が

あり心配していましたが、受講者に中学校前半の数学的知識があれば、講師の解説に納得しながら、学習を進めることができると思います。理解しやすく面白い解説で説明してくれるため、スムーズに学習へ取り組むことができるのです。中学校前半の数学的知識に自信の無い方は、受講前に下準備をしておいた方が良いと感じます。また、講師陣は元教員が数名おり、講義中に自分の体験談や、注意点を講義内容と交え、現場の目線より述べてくれるため、知識と結びつけることが容易となります。それらを、指定テキストとは別に、オリジナル・レジュメを用い、より効率的で集約した内容にして解説してくれます。さらに、講義終了後も講義内容に関する質問のみならず、自分の受験する自治体に関してや、複数の受験候補自治体があり悩んでいる場合など、多くの質問を親身に受け止め、アドバイスをしてくれます。全体的に、教員採用試験の勉強をしながら、なぜ教師になるためにこの知識が必要かを学んでいく場ととらえることができると感じました。

進路相談に関しては、2度ほど面談の機会があり、スタッフの方がデータを用い、面談者の意見を聞きながら、アドバイスを行ってくれます。前述した講師への質問が苦手な場合でも、面接となれば多くの疑問や、考えを積極的に話すことができ、不安の解消にもなるでしょう。

夏休みなどの長期休暇期間には、午前1コマ、午後1コマの計6時間講義があり、また講座の長期休暇期間には、課題的な問題集を提供してくれるのも魅力の一つです。

年に2回ほど模擬試験も行われ、自分の実力推移を実感することもでき、教員採用試験へのきっかけとして本講座は重要な意味を成し、自らの意志を確かめる第一歩となると感じます。

専修大学附属高等学校から 「教育現場で感じる教師の使命」

専修大学附属高等学校 教頭 沼田 眞爾

人はいつの時代も、家庭や社会からしっかりと見守られて初めて成長する事が出来ます。豊かな心に包み込まれた日常生活の中で、人と共に生きる喜びや、感謝の気持ちにあふれる素直な心などが自然の内に備わってきます。かつての日本社会全体は、極めて高い教育力を持ち、様々な場面を通して、若者達に生きる知恵が継承されて来ました。しかし、近年の社会全体の荒廃は、残念ながらその教育力を随分と濁らせてしまいました。

現在の高校には学力と生活の両面から、以前にも増して様々な生徒が入学して来るようになりました。勿論優れた面を持った生徒も沢山いますが、人として本来身に付けているべき常識が教えられていないままの生徒もいます。様々な問題行動も、多くはその善悪さえ教えられないままの行動と言えます。生徒達は十年もしないうちに社会人になります。教科指導も大切ですが、一方で社会人として、自らの人生を尊び、たくましく前向きに歩むことの大切さを十分に知ってもらうことがより重要であると思います。そして、彼らには、生きることは楽しく失敗や辛いことも決して無駄にはならないということ、思うように行かないことは実に多いけれど、常に誠実に自分に出来ることを精一杯取り組む事の大切さをしっかりと掴んで欲しいと思います。

生徒一人一人と向き合うことは、大変手のかかる仕事であり、苦勞も多いのは事実です。いつも子供達がすぐに反応してくれるわけでもありません。しかし、子供達は本来は誰もが素直であり、人と豊かな交流を持ちたいと思い、自分の夢を実現したいと願っています。そして、彼らの多くは何かのきっかけで見事に変わり、素晴らしい成長を見せることがあります。教師が一生懸命ならば生徒も一生懸命になります。自分が人の人生に関わることが出来る、教師とは何と素敵な仕事ではないでしょうか。

将来教員を目指す方には、相当の覚悟が必要であると思います。手軽に出来る仕事では

ありません。しかも子供達は人の力量を実に正確に見抜きます。私達教師は、教科の力も、そして総合的な人間としての力も常に研鑽を積み続けなければなりません。優秀であることも立派ですが、挫折や苦悩も教師にとって大切な財産であると思います。そして、何よりも人と関わることが好きで、生徒達を何とかしてあげようと思う強い気持ちが大切です。

以前は、学校社会はどこも比較的閉鎖的で、外から批判されることもありませんでした。そして、教師達は何事も自分流で済ませることも多かったと思います。しかし、今すべての学校が大きく変わろうとしています。学校全体がしっかりとした教育目標を持ち、その教育機能が十分な成果を挙げているかが広く社会から求められています。また、情報公開も当然で、すべての点での透明性が求められています。多くの学校で、教師間の授業公開や保護者の授業見学・参加、生徒による授業評価など、学校改革が様々な面で進められています。また、教師以外の方が教えたり、地域の方々との交流さえ珍しくはありません。学校作りには、教師の豊かな創造力がますます必要になっています。勿論教師の仕事は即効性のあるものばかりではありません。世の中がすぐに結果を求めすぎるのも困ったものですが、いずれにせよ学校教育に大きな人間育成の使命を期待されているのは事実です。大きな責任と教師としての社会的使命を担い、新しい社会を是非より良いものにしていこうとする教師志望者の登場を心から望みます。





司書・司書教諭課程



学校図書館法改正から10年経過した今、司書教諭に期待すること

経営学部 兼任講師 渡辺 暢恵

1. 学校図書館法改正と司書教諭への誤解

1997年（平成9年）に学校図書館法が改正され司書教諭の配置が法律で定められたとき、多くが「これで学校図書館が本当に活用されるようになる」と胸をなでおろした。学校図書館には、司書教諭の資格を持った先生が常時いて、授業中も休み時間も児童・生徒が活用する、そういう風景を誰もが想像した。当時、私は嘱託で小・中学校4校の学校司書をしていた。元は小学校の教員で図書主任もしていたし、司書教諭の資格は取得してあった。「今度は、1校の学校図書館で正規に働けるようになりますよ。きっと採用がありますよ。」校長先生が新聞の切り抜きを持ってきておっしゃった。

それから、司書教諭有資格者が足りないのに資格をとるように勧められた教諭が、夏休みに大学で司書教諭講習を受講することになった。進んで受講する教諭の多くは40代以上の女性教諭だった。「ずっと担任をするのは大変だから、ゆくゆくは図書室でのんびりできるだろう。」そう思って受講したし、校長先生も同じことを言って勧めた。

ところが、司書教諭というのは、多くの人イメージしていたものではないということが次第に明らかになってきた。司書教諭と言っても担任は持ったまま、教科指導ももちろんある。「なんだ、仕事が増えて負担が重くなるだけなんだ」受講した教諭は落胆するばかりだった。しかも、12学級以上の学校にのみ配置するという条件までついている。（11学級以下も置くことは奨励されている。）小規模学校には関係ない話だということになった。

2. 学校図書館の活性化

このような状況にありながらも、学校図書館は次第に活性化されていった。多くの自治体で学校司書を採用するようになったためである。全国学校図書館協議会の調査では、1997年（平成9年）に小学校が22.1%、中学校が26.1%、高等学校が87.4%の学校司書配置率だったのが2007（平成19年）年には、小学校が44.9%、中学校が50.8%、高等学校が87.6%に増加している。

ここで、司書教諭と学校司書の違いを確認しておく。司書教諭は、教諭なので授業をする立場にある。学校図書館法で定められた5科目10単位を取得した資格保持者である。勤務する学校で発令されて「司書教諭」と名乗れる。

公立校の学校司書については、高等学校では都道府県での採用があるが、小・中学校は区市町村独自の方針で採用している。司書教諭、司書、教員資格などを有していることを条件とするが、中には資格を問わない採用もある。職名は、「学校司書」「学校図書館指導員」「読書指導員」「図書整理員」など様々である。多くは非常勤職員で、何校も兼務することもあり、労働条件としては大変厳しい。学校司書の待遇改善は大きな課題である。

学生の中には、「そう言えば」と思い当たる人もいるかもしれない。ある日、学校図書館に勤務する「図書室の先生」（実際は教員の立場ではない）が現れて、今まで物置きのようだった学校図書館がきれいに使いやすくなった、図書室の先生と話をするのが楽しみだった、など。私もその図書室の先生の一人だった。「わあ、図書室が進化した」と子どもたちは歓声をあげてくれた。「進化」というのは、ポケモンブームで使われるようになった流行言葉だった。図書の時間に来る児童に読み聞かせやブックトークをするのも楽しみであった。非常勤職であっても、今までの学校図書館ではなかったことに満足していた。多くの学校図書館がこのようであってほしいという願いをこめて、『子どもが生き生きする学校図書館づくり』（黎明書房）という本も出版した。そして、内心、司書教諭がいてもいなくても同じではないか、これでよいのではないかという思いもどこかにあった。



3. 司書教諭の役目

「学校図書館は明るく使いやすくなった、子どもたちも先生も喜んでいる。しかし、これでよいのだろうか？」そう疑問を持つようになったのは、平成11年ぐらいからである。私が読み聞かせをしている間、担任の先生は採点をすることもある、子どもたちが本を選んで読むのを黙って見ているだけ。中には読まずに本の交換ばかりしている児童もいる。授業中の学校図書館としてこれでよいはずがない。また、学校図書館を授業中に利用する先生としない先生と差がある。中学校では、学校図書館は全く関係ないという顔の先生もいる。何かが違うと思った。

この疑問が解決したのは平成18年、つい最近のことである。著書があったことから大学で司書教諭の科目を担当し、市町の教育委員会から全体のアドバイスをする仕事を依頼されるようになり、研究のために学校図書館の先進校、先進地を視察させてもらった。

その中で、司書教諭が学校の中で推進者として任務を果たしている学校は、どの学級も授業の場として学校図書館を活用していることがわかったのである。最もよい例が山形県鶴岡市立朝陽第一小学校だった。司書教諭が学校図書館推進のための会議の中心的メンバーとなり、次週の学校図書館の予定を立てていた。自身もチームティーチングのT2として授業支援をしている。学校司書（この学校は正規の市の職員である。）は、前で読み聞かせをするのではなく、資料の準備とレファレンスをしている。授業を進めるのは担任である。司書教諭がカリキュラムに基づいて計画を立て、職員全員が学校図書館で授業ができるようにし、学校司書は其中で、資料の専門知識を使って支援をする。学校司書だけでは学校全体の活用は進まないのである。司書教諭の重要な役目はコーディネーターだった。

4. これからの司書教諭

以上、私自身の経験を踏まえながら、学校図書館法が改正されてからの10年間をふりかえてみた。司書教諭は専任ではなく当初の期待からは遠いものだったが、その役目を自覚し、学校司書と連携し、あるいはボランティアの協力を得て、学校全体の学校図書館活用を促せるということが全国各地で証明されてきている。授業の持ち時間数を軽減してもらい、他の学級にかかわることも実践されている。職員室に学校図書館の新刊を移動して、しばらく閲覧できるようにしたり、夏休みに学校図書館にかかわる校内研修を開催したりする司書教諭もいる。知恵を出せば、方法はいくらかでも出てくるのである。

何より大切なのは、楽しんで司書教諭をすることである。学習指導要領も改まり、今後ますます学校図書館を活用する授業が重視される。「司書教諭がいてよかった。」と言ってもらえるチャンスはたくさんある。自分の学級、指導する教科の児童、生徒だけではなく全校を動かすことができる。やればやっただけの確かな手応えがある仕事である。

まずは、自分が本を開いて読み、自分の教科で学校図書館を使ってみること、それが第一歩だろう。これから司書教諭になる学生のみなさんに大いに期待を持ちたい。



図書館実習を終えて

山梨県上野原市立図書館 文学部日本語日本文学科4年 波多野 裕子

私は、7月後半から8月前半の2週間、山梨県上野原市立図書館で実習をさせていただきました。この図書館は私自身が小学生の頃、学校帰りに立ち寄っていた馴染みのある図書館でもありました。実習中は様々な業務をさせていただき、貴重な経験となりました。その中で、印象に残った体験を記していこうと思います。

図書館は小規模で、3人の職員の方が運営しています。職員の方の外出時には、アルバイトに任せているそうです。1階は主に、児童図書、視聴覚資料（ビデオやCD、DVD）、利用者用のパソコン、会議室が、2階には、一般図書と個人閲覧席が設置されています。

毎年、夏休みに地元の小学3～6年生を対象とした一日図書館員を募集し、図書館の業務を体験してもらう催しを行っています。ちょうど私の実習期間中に、3日間重なっていたので、小学生とも一緒に仕事をしました。

実習の内容は、主にカウンターでの利用者への貸出・返却手続き、返却本の配架作業が中心でしたが、視聴覚資料やパソコンの館内利用手続きもしました。また、それらの仕事の空き時間を利用して、相互貸借の手続きや新規利用者の図書館カードの作成などもしました。最初は手回取ってしまった面がありましたが、職員の方に教えていただきながら、進めていきました。

カウンターでは、利用者からのたくさんのレファレンスがありました。ある時、「新聞に載っていた〇〇さんが書いた本はありますか。」という問い合わせがありました。そこで私は利用者にいつ、どの新聞に掲載されていたかをお尋ねしました。そして、資料検索を行い、目的の本を見つけることができました。しかし、その過程でずいぶん時間を費やしてしまいました。後に職員の方から、レファレンスは抽象的なものが多いので、常に新聞・雑誌等の媒体から、最新の図書に関わる情報を入手していかなければならないとアドバイスを受けました。そのような情報が頭に入っ

ていると、素早く対応することができるのだと実感しました。

寄贈図書の目録作成から書架に配架するまでの作業も経験しました。分類は、「日本十進分類法」を用いて行いました。タイトルだけで分類できるもの、そうでないものがあり、苦労しました。分類の判断が難しい場合には、図書の「はじめに」や「あとがき」から内容を掴み、進めていきました。これも普段の配架作業で、どんな内容の本がどこに所蔵されているのかを理解しながら行くと、スムーズにできるのだなと感じました。

8月22日～24日には、市役所内の文化ホールにおいて『世界でたった一つの手づくり絵本展inうえのはら』が開催されたので、そのうち2日間会場のお手伝いをさせていただきました。そこでは全国のサークルの方々の作品500点（布絵本が15%）、出版絵本の原画等20点が展示されました。一日目は、どんな作品がどこに展示されているのかを把握しながら鑑賞しました。お客様から、これはどのように作ったのか、材料は何か、などの質問があり、その対応もしました。また、サークルの方々によるエプロンシアターや絵本の読み語りも行われました。2日目の午前には、蛇腹式折り本づくりの講習会に参加させていただきました。午後は、児童文学作家の岩崎京子さんの講演を聴き、その後には、絵本や子どもたちの教育に関する意見交換会がありました。保育士や、絵本サークルの方が多かったので、子どもと本についての熱心な意見を聴くことができ、勉強になりました。

実習を終えて、図書館員の仕事は、多岐にわたり、私たちの目に見えない細かな仕事があることを知りました。そして、普段から自分にアンテナを立て情報を入手し、利用者に的確な図書を提供できる柔軟な思考を備えていくことも大切だと感じました。最後になりましたが、実習中は、館長さんをはじめ、職員の方々に大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

図書館実習を終えて

宇都宮市立図書館 文学部日本語日本文学科4年 大塚 祐美

私は8月半ばの約2週間を、栃木県宇都宮市にある宇都宮市立図書館で実習させていただきました。宇都宮市にはもともと宇都宮市立図書館（以下・市立図書館）と宇都宮市立東図書館の2つの図書館がありますが、昨年の市町村合併により上河内町と河内町が宇都宮市と合併したため、現在では2つの町にあった図書館を含めた4つの図書館があります。今回の実習は一般開架室と児童室、視聴覚室、調査相談室を順に回り、カウンター業務と配架、書架整理などの業務を行いました。カウンターでは貸し出し・返却業務をさせて頂いたのですが、バーコードスキャナをバーコードにかざすという単純な作業に思えても、処理を間違えると、返却をしたはずなのにシステム上はいつまでも返却されていないということになり、書架を一から探さなくてはならないなど、一つ一つの作業の責任を感じました。

その他にも、ボランティアの方が行っている子供むけのお話会に参加させて頂いたり、新刊や利用者からリクエストのあった資料のうち、どれを購入するかきめる選定会議を見学させて頂いたりしました。カウンター業務の他にも、破れた本やケースの壊れた視聴覚資料の補修作業、他館から予約の入った資料を書架から探す作業など、授業では習わない図書館の業務を学ぶことができました。

多くの作業をさせて頂いた中で私が一番印象に残ったのは、学校支援事業です。市立図書館には、図書館内での資料収集と貸し出し、調査相談などを主に担当する「館内奉仕課」と、団体貸し出しや小中学校との連携などを担当する「館外奉仕課」の2つがあり、学校支援事業は館外奉仕課の業務になります。

学校支援事業の主な内容は、学校巡回図書と学校への団体貸し出しの2つです。学校巡回図書は、小中学生の学年ごとに普段の読書や総合的な学習等の調べ学習の参考になる本を40冊セットにし、週に一度巡回する事業のことです。

週に一度はどの小中学校にもセットが行くように、集配車は1日に2回、午前中に市の北部、午後に南部を回っています。総合的な学習のテーマに合わせ、北京オリンピックの前なら中国に関する本を入れたり、修学旅行シーズンには京都や奈良のガイドブックや歴史の本を入れたりしています。これらの本のセットを、職員の方たちは一から選び、定期的に中身を入れ替えて発送しています。

もうひとつの団体貸し出しは、学校の授業や読書の時間に使用したい本を、テーマに沿って選び貸し出す事業です。例えば小学5年生の総合的な学習で福祉について調べるのであれば、盲導犬についての本20冊、高齢者福祉についての本20冊などを、図書館の蔵書の中から選びます。私もこのテーマで本を選ばせてもらったのですが、5年生用ということで、本の内容が難しすぎたり簡単すぎたりしないかなど、ちょうど良い本を探すのはなかなか難しく、20冊選び出すのにもかなりの時間がかかってしまいました。実際に本を手にとって作業するのは楽しいことでしたが、職員の方はこれを1日に何件もこなしているのだと思うと、頭の下がる思いでした。これらの事業はまだ始まったばかりで、これからは巡回図書の種類と内容を充実させていきたいとのことでした。

せっかく実習をするなら地元の図書館がいいと思って始めた実習でしたが、自分が育った街の図書館が全国的にも高い水準を誇り（貸し出し冊数が全国35の中核市の中で2位）、学校支援等の様々なサービスを行っていることを知り、驚くとともにうれしく思いました。そして、学校の授業では知ることのできなかった図書館の業務を知ることができ、司書という仕事の大変さと、やはり自分は本に触れていることが好きなのだと気づかせてくれた実習でもありました。



學藝員課程



臼杵磨崖仏の仏頭復元と市民のコンセンサス

大分県臼杵市教育委員会 教育次長 菊田 徹（昭和46年度文学部人文学科卒業）

1. はじめに

臼杵磨崖仏と言っても、多くの方々にとってはあまり馴染みがない名前であり、その磨崖仏と言うものがどのようなもので、どこにあるのか知らないという方が大勢おられるのではないかと思います。この磨崖仏は、九州の東側、大分県の臼杵市に所在しています。大分県と言いますと、一般的にすぐ思い起こされる名前は、観光で売り出している湯布院や日本一の湧出量を誇る別府温泉ではないかと思えます。しかし、石造文化財、特に、磨崖仏を含む石仏というのを見てみると、全国に所在している石仏のおよそ8割が大分県に集中していることもあって、石造文化財の宝庫として広く知られています。しかも石仏は、県北の国東半島を中心とした地域と県中部の大分市及び大野川流域の地域、さらに県南の臼杵を中心とした地域の三つに大きく分けられ、所在の位置や形態、歴史的背景などそれぞれに特色を持った石仏として存在しています。

2. 磨崖仏の保存修理

臼杵磨崖仏の製作年代については、はっきりと年代が記された資料がなく諸説ありますが、概ね平安時代後期から鎌倉時代にかけて彫られたと考えられています。

磨崖仏の造頭については、多くの謎に包まれ、様々な解釈がなされていますが、造頭以来、今日までの長い時間を経過してきた中で、岩盤である阿蘇溶結凝灰岩に多くの亀裂を生じ、一部岩盤の崩落を招いたり、著しい地下水の湧出による地衣類や藻類等が繁殖し、磨崖仏を含む龕全体にわたって風化の度合いを強めていました。そこで岩盤の崩落や地下水の影響による地衣類・藻類等の繁殖と侵食を抑え、その保存を図るため、臼杵市は1957年～1962年までの6年間、第Ⅰ期の保存修理工事を、1979年～1993年までの15年間、保存施設としての覆屋の設置を含む第Ⅱ期の保存修理工事を実施しました。

3. 仏頭復元問題と市民のコンセンサス

第Ⅱ期の保存修理工事は、四群ある古園石仏・山王山石仏・ホキ石仏第一群・ホキ石仏第二群の内、1979年から山王山石仏を皮切りとして、ホキ石仏第二群までの保存修理工事を終え、1988年から3カ年の計画で三箇所目のホキ石仏第一群の工事へと順調に進み、3年目の最終年次をむかえ、いよいよ来年度から古園石仏の保存修理に取り掛かれると思ったその矢先の1990年6月、地元新聞社が突然



「編集局からあなたに質問」というタイトルで読者に臼杵磨崖仏の中でも特に有名な大日如来像の割落している仏頭を「当時の姿に復元して保存した方が良いか」、それとも「今の落ちたままの現状で保存する方が良いか」というアンケートを取り始めました。仏頭復元問題がマスコミによって取り上げられたことによって、俄かに世情が騒がしくなってきました。臼杵市としては、第Ⅱ期の保存修理は、割落している仏体片の位置確認を行い、元々の位置がはっきりと確認できた石片については元に戻すことを基本とするということを修理事業開始の前に、マスコミ等を通じて広く発表し、最初に修理に取り掛かった山王山石仏やホキ石仏第二群、同第一群において、割落していた仏頭を含む仏体片についてはすでに修復工事を行ない、それぞれの磨崖仏群の修理工事前と後には、一般市民を対象とした現地説明会をその都度開催し説明をすると共に、現地に来られなかった市民のために市の広報誌で修理内容や方法を詳細に説明してきました。しかし、臼杵磨崖仏の中でも中心的な存在となっている古園石仏の中尊大日如来像の仏頭復元については、十分に市民への説明を行い、理解を求めておくようにという臼杵磨崖仏保存修理委員会からの指摘もあり、市民に対する本格的な説明会をいつ頃から始めるか内部で検討している矢先のことでした。新聞によるアンケート調査によると現状保存を望む人が約61%、復元保存を望む人が39%という結果が出ました。このアンケート結果を受けて、市民からの仏頭復元についての賛否の意見が多く寄せられるようになったので、事業を担当している教育委員会としては、早速、1990年8月からまず磨崖仏が所在している地元区民への説明会を初めとして、1993年3月までの間に88回に及ぶ仏頭復元問題についての説明会や討論会を開催しました。

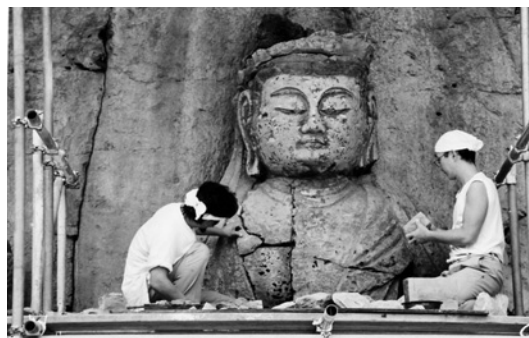
こうした説明会や討論会は、行政と民間団体がそれぞれ主導して開催し、市民の意見を

聞いています。こうした問題に対して、一般的に「役人は自分の仕事が不利になるような資料や情報を開示せず、また、討論会などにも出席せず、都合の良いことばかり言う」という市民の批判を避け、真摯な対応を心がける為に、文化財担当職員は、全ての会に出席し、①磨崖仏の現況、②過去の修理経過、③今回の保存修理の方法、④修理のメリットとデメリットの4点について、過去のデータや修理仕様等、現在、行政が持っている資料や情報を全て開示し、同じ土俵の上で討議し、論議を深めていきました。はじめのうちは、「仏様の頭を元の位置に戻すのは、イメージが変わるから絶対反対」「今まで見慣れていた姿が変わることに反対、なぜ今戻さなければならないのか」「野仏としての雰囲気失われる」「頭が下に落ちている状態で市民権を得ているのに変える必要があるのか」「現在の技術で地震等による落下は起きないか」と言った疑問や意見が多く出された一方、仏頭の復位をすべきだという意見には、「学術的にも、将来的にも遺すためには、本来の位置に戻すべき」「製作者が心血を注いで彫った仏像の姿に戻すことが望ましい」「保存修理は、現在の最高技術とそれを持つ集団によって行なわれるものであり、次代に遺して行くために任せるべきだ」「この傷んだままの状態にしていたら早い段階に消滅してしまう危険がある」「仏様なのだから本来の姿に戻すべき」といった意見が出されていました。説明会や討論会、修理の状況を知らせる現地説明会を何回も繰り返し開き、長い時間をかけて議論を交わし、出された疑問や意見に対して、できることと出来ないことをきちんと説明する誠実な対応を心がけてきました。最終的には、「修理についてのメリットやデメリットはあるが、専門的知識のない私たち市民が賛成反対の結論を出すことは非常に難しい、ここは長い時間、一生懸命説明をし、誠実に市民に対して修理の必要性を訴えてきた担当者の熱意に任せようじ



ゃないか」という意見が多く出され、市民が概ね仏頭の復元を含む保存修理に対して賛意を示してくれました。こうした市民の賛意を受けて、修理の最終年次の予算を議会に提案したところ、議会は、この仏頭復元を含む保存修理についての説明を受けていない、これは議会を軽視しているということで修理に関わる予算案は否決されてしまいました。今度は、このことを知った市民が議会に対して怒りをあらわにし、「今まで行政は、長い時間をかけて説明会や討論会を開催して、幾度となく市民にきちんと説明責任を果たしてきているのに、議員は誰一人として説明会や討論会に参加していない。日頃の議員としての活動がないがしろにし、議員に説明がなかったから修理予算を否決するとはもってのほかである」といった抗議や批判が議員に殺到し、結局、議会としてはこうした市民の批判の声に対して、公聴会を開催し市民の賛否を問うということになりました。この公聴会では冒頭から議員に対する批判が相次ぎ、糾弾集会のような様相を呈していましたが、大多数の市民が仏頭復元を含む修理に賛意を示しているということが分かり、6月議会において保存修理工事の補正予算が可決されました。

仏頭復元問題については、賛否両論あり、色々と論議が交わされましたが、行政側が磨崖仏保存修理に対してのメリットやデメリットなどを含め、全ての資料や情報を開示して、市民と同じテーブルに着いて真摯に議論を重ね、お互いの主張を理解し合い、信頼関係を深めていったことが、結果として市民のコンセンサスを得ることができた大きな要因であったと考えられます。これからの行政、取り分け文化財行政においては、独りよがりにならず、文化財は国民共有の財産であるという認識に立ち、どうしたらこの財産を末永く守っていけるかということを市民と共に考えていく必要があると思っています。



博物館実習を終えて

箕輪町郷土博物館 経営学部経営学科4年 大和 あゆみ

私は自らの出身地で長野県箕輪町にある、箕輪町郷土博物館で1週間あまりの実習を行いました。箕輪町郷土博物館は、規模は小さいものの、地域の民俗資料、自然資料、発掘資料、美術資料の4つの分野があります。中学校や小学校の近くに位置し、地域密着型、人々との交流を大切にしている博物館です。1週間という短い期間でしたが、私ともう一人の実習生に対し温かく迎え入れていただき、学芸員3名、事務員2名の方々がそれぞれ実習をサポートいただき、疑問に思ったことは何でも聞き幅広く知識を吸収し、中身の濃い実習となりました。

実習では、小学生の夏休み期間と重なっていて、勾玉作りなどの体験学習を博物館で行なっていました。私たちは、学芸員の方と同じスタッフとしてこれに参加。自分自身、小学生の時にこの博物館で体験学習の思い出があったので、主催する側の視点での今回の体験は新鮮味があり、学芸員の方の体験学習に対する考え方など学ぶところの多いものでした。学芸員さんの話では、「夏休みの体験学習は今回が初めて、今までは開催してもわざわざ休みの日にやってきてくれるだろうかという不安があった」そうです。しかし、実際は夏休みの自由課題などにもなると、勾玉作り体験には50名ほどの子供たちや、その親御さんが参加してくれました。小学生たちの楽しそうな姿、子供たちより自分の方がはまってしまう親御さんの姿を見ていて、新しい体験は年齢に関係なくいつ始めてもいいのだと気づきました。そういった体験を与えられることは博物館の一つの役割です。そしてそのことを常に念頭に置き新しい企画をしていくのは学芸員としての大切な仕事だと感じました。

そして、出身地での実習といった面でも、得られるものは大きかったと思います。長野県箕輪町付近は縄文時代の遺跡が多く発掘されており、博物館ではその発掘や保存なども担っています。私はそれまで、箕輪町の埋蔵文化財について詳しく知らなかったのが大変驚きました。この夏は昨年発掘された土器の整理がほぼ終わり、丁度復元作業をしているところで、実際の復元作業を途中までさせていただくことが出来たこともいい経験になりました。パーツを一つずつ合わせる作業は、ピッタリできたとき面白い反面、地道で地味

なものでした。上部しかないと思っていたパーツが、違う整理ケースから下部パーツが出てくるといったこともありました。積み上げられた未復元のケースを数



え、作業の大変さを垣間見ました。また、復元をしながら発掘作業と埋蔵文化財についての解説を受けました。本当は発掘をせずそのままの状態にしておくことが自然である、それができないからできるだけ保存しようとする話を実際の倉庫など見ながら聞くことができました。ただ話を聞くだけでなく、実物を見たり触れたりすることでどういうことかよく理解でき考えさせられる体験でした。

さらには、「せっかくの実習ですので、実際見てください」といって学芸員の方が、時間が空くと町の中に点在している県の重要文化財や建築物などへ連れて行ってくださったことも博物館事業や地元を知るよい機会になりました。古くなった桜の大木を所持者と協力して補強をしたこと、その手続きの内容など学芸員のデスクワークについても学びました。

今回の実習で知識として学ぶだけでなく、驚きや感動があったこと、出身地について新たに知ることが出来たことは私の実習をより多いものとしてくれました。そしてもう一人の実習生が中学生時代の同級生であったことは実習をより楽しく有意義なものとしてくれました。今後、館務実習へ行く方もそのような貴重な体験をしていただきたいと思います。



土器の復元

博物館実習を終えて

象潟郷土資料館 文学部日本語日本文学科3年 嶋谷 仁美

私は今年の夏、地元である秋田県にかほ市にある象潟郷土資料館で十日間の博物館実習を行いました。実習館は他に三つの候補がありましたが、ここに決めた理由は「自分のゼミテーマである江戸文学や江戸文化に関係した人物・事柄を扱っていること」「自分の生まれ故郷の歴史に興味があること」の二点でした。これは実習してから感じたことですが、実習館を選ぶ際のコツとして、規模の大きさや知名度の有無よりも「どれだけ自分の興味ある分野に関係しているか」「関心のある事柄を扱っているか」に着目して選ぶことが重要です。そういった意味でも、今回の実習体験は私にとってとても大変興味深く有意義なものとなりました。

今回実習の十日間のうち、メインとなったのは「象潟・おくのほそ道サミット」という催しの開催地としての運営業務でした。象潟は松尾芭蕉が『奥の細道』で訪れた最北の地であり、資料館でも松尾芭蕉に関する資料を多数展示しています。このサミットは毎年行われていますが、象潟が開催地となるのは実に二十数年ぶりだそうで、職員の方々も私もそのプレッシャーと準備に迫られました。サミット当日は県内外から訪れた教育関係者や参加者とともに、「奥の細道」をいかに観光資源・貴重な歴史的財産としてPRしていくか等の報告会と、「奥の細道」について研究されている上野洋三先生をお招きしての特別講演会などが開かれました。その中の特別講演会については、職員の方々のご厚意によって私も参加者にまじって聴講させて頂くことができたのです。江戸文学を専攻している身として、学芸員の実習中でありながら自分自身が選んだ研究テーマにも役立つ知識を得ることができ、改めてこの博物館で実習が出来て良かったと感じました。

さらにこのサミットでは象潟郷土資料館に参加者を招き、展示品や館内を案内するというプログラムもあったのですが、その際私は学芸員の方から「こういった場合はどういう展示品を選んで紹介しているか」などを一緒に解説して頂き、初めて博物館側の立場から利用者に対する工夫・ノウハウを知りました。時間が限られたり初めての利用者が多い場合、価値が大きい順に資料を解説するのではなく、

例えばエピソードや話題性があるものを選んで解説し、利用者がより興味をもってくれるようにするなど、普段利用者側にいる私たちは知らないことを学芸員として教えていただきました。一度にこうした大勢を解説することはあまりないようで、これもサミットがあったために学ぶことのできた収穫といえます。

実習では、これらサミットに関する業務のほか地元の史跡や文化財の管理・保全業務にも同行させて頂きましたが、その中で市の文化財を守る会の方々から「こういった史跡を守っていくには若い人の力が足りない」「ボランティアだけでは管理・維持が出来ない」といった文化財保護・管理の厳しい現状や切実な問題を教えていただきました。私自身もこれらには肌で感じるものがあり、地方の文化財指定や保護の難しさと一緒に学芸員の方から地方の文化財の現状を教えていただくと同時に、なんとか守っていく道はないかと会の方や学芸員の方と作業をしながら一緒に方法を模索したりもしました。

夏の日差しの下、汗をかきながら地元をあちこち巡りながらの地道な作業でしたが、自分が大好きなふるさとの景色を眺めながら、これらの歴史を守るために何ができるかを考えたあの瞬間は、何にも代えがたい瞬間だったと痛感しています。

博物館実習において大切なのは、それまで授業で学んだ知識以上に「自分が現場で学ぶ」という体験です。冒頭で述べたように一つの体験から自分が一つでも多くの何かを吸収できるような、自分と興味関心の合った実習館選びには十分時間をかけて損はありません。皆さんの博物館実習が実りあるものになることを心から応援しています。



博物館実習を終えて

上越科学館 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科3年 小菅 拓真

地方出身の者は地元の館に実習をお願いするようにとのことだったため、幼少の頃によく行っていた上越科学館で実習をしたいと考えた。小学校卒業以降は一度も入館した記憶がなかったため、昔とどれだけ変わっているのだろうと思いながら実習初日を迎えた。

まずは館の展示を一通り見た。私の知っていた展示との差異はほとんど見られなかった。ほとんどのものが開館当初からのものだという。内容としては現在でも十分に通用するものであるが、表現が古いように感じられるものであった。予算の問題から展示更新がなかなかできずにいるらしい。その後、財政の問題は実習期間中を通してことある毎に意識させられるものとなった。

実習内容は初日から充実したものであった。放課後学童保育施設へと赴き、科学実験を行なった。両親が共働きをしている家庭が多いことから、夏季休暇中もボランティアの方が放課後学童保育を行なっているとのことだった。

サイエンスプロデューサを名乗っている方のような実験や、学年ごとに分かれて科学工作を行なった。私は1年生のグループについていたが、同じ学年であっても個々の能力にかなりの差があった。ハサミやステープラの操作の際には非常に神経を使った。何をやるにしてもアウトリーチ活動において怪我をさせてはいけないため、安全ということを念頭において動いた。そのため、結局個別に進行させるような形になってしまい、全体の進度に合わせるのが難しかった。

しかし、何よりも困難であったことは学童とのやりとりであった。私は保育園で手伝いをさせて頂いた経験があるが、そのとき“バカになれない”自分がいることを感じていた。今回もそのように感じたが、それに加えて完全に“バカ”になってもいけないのではないかと感じた。統率しなければならない立場にあるため、バランスが大切だと思った。今回も中途半端なやりとりとなってしまっていたが、物が完成し、皆が笑顔で遊んでいる姿を見ると救われた気分になった。

こうしたアウトリーチ活動の依頼は年々増加しているようだ。その後の実習で行なった観覧動線調査から、メインとなっている展示はほとんど観られることなく、遊具がある人気の場所に来館者が集中しているという実態があった。来館者の中には、入館直後から退館までずっとそこにいる者もあった。館内の展示内容は中学生で理解できるレベルのものだが、主だった来

館者は小学生以下の者ばかりであり、この点からもアウトリーチ活動の果たす役割は重要であると考ええる。100km以上離れた新潟市まで行ってアウトリーチ活動を行なったことや「依頼は可能な限り断らないようにしている。」という言葉聞いたときには頭が下がった。

雪国ということもあり、この館は雪に関係する実験が売りであるようだ。今回氷晶レプリカを作成することができた。氷晶が蒸発してもその形が保存されるようにするための溶液を作った。アクリル棒を1、2時間ほどひたすら削り、1gのアクリル粉末にし、ジクロロメタンに溶かした。後は水分を充満させたアイスストッカにスライドガラスに溶液を伸ばしてエアキャップを弾くだけだった。意外とシンプルな方法で氷晶レプリカの作成が可能であることに驚いた。うまくできたかどうか不安だったが、顕微鏡で氷晶を確認できたときには胸がいっぱいになった。

化石レプリカを作成したときには型取り液が予想以上に早く固まり、市民の税金を無駄にしようようなことをしてしまった。市民の税金を使っているということを身をもって知ることになり、あらゆるものを大切にしなければいけないのだと実感した。

述べ切ることができないが、ほかにも様々なことを経験することができた。実務レベルの仕事を多く経験させて頂いたが、実務では様々な能力が要求されるということを感じた。2名しか職員がいないこの館では“雑芸員”にならなければやっていけないのだと痛感した。先生が言うには「持っている“芸”の3分の1も見せることができなかった。」とのことだった。知見を広めるだけではなく、実際に経験することの重要性を感じずにはいられない実習であった。



博物館実習を終えて

すみだ郷土文化資料館 文学研究科歴史学専攻修士課程1年 木村 亮

私は東京都墨田区にあるすみだ郷土文化資料館にて二週間の博物館実習をさせていただきました。私は生まれも育ちも墨田区なので、同資料館を実習先を選びました。

すみだ郷土文化資料館は決して大きな博物館ではありませんが、地域と連帯しながら墨田区と墨田川の歴史や文化を伝えています。そのため、展示品である墨田区を取り扱った絵画、墨田区に関する古文書や考古資料、それから東京大空襲で被災された方々が描いた多くの東京大空襲画の多くは、地域の方々からの寄贈品であったりします。さらには、同資料館はボランティアの方々にも協力してもらいながら、小学校での民具体験や常設展の展示替えを行っており、地域との連帯は他の大きな博物館よりも強いと言えるでしょう。

そんな郷土文化資料館で、実習を通して私が学ばせていただいたことは、学芸員とは具体的にどのような職業で、何をしているのか、ということです。その答えは、至極当たり前のことではありますが、博物館の運営と資料の保存です。

博物館の運営はさまざまありますが、資料館で体験させていただいた中でも印象に残っているのは、展示替え、特別展の準備、企画書作成です。展示替えは、夏まで行っていた「すみだ川レガッタ展」から「東京大空襲画展」へ替える作業でした。あくまで、絵画を見る人の目線に合わせ展示することを教えていただきました。さらに、絵画を描いた方にインタビューをし、何を絵の中で描きたかったのかをお聞きしました。特別展は墨田区に伝わる「梅若丸伝説」を扱ったもので、今年の秋に行うものですが、その図録作成を手伝わせていただきました。図録を締め切りまでに書きあげ、印刷会社に渡し、さらにパンフレットも作製するなど、特別展を手伝わせていただいたことで、展示の出来上がり方とその前の忙しさを間近で見せてもらうことができました。そして、企画書作成は「夏休み向けの子供に向けたイベント」をテーマとして与えられ、「如何にそのイベントがすみだの歴史や文化を伝える教育的なものか」に注意して書くことを教えていただきました。私が体験させていただいた三つの作業だけでも内容が濃く、忙しさに疲れてしまいました。博物館を運営することがいかに忙しく大変であるか、身をもって学ばせていただきました。

もう一つの学んだことは、資料の保存です。それは博物館が行う義務でもあります。本物の、貴重な資料を使いながら、資料梱包の仕



方、掛け軸や絵画のかけ方・収納の仕方、古文書の保存の仕方などを、テストを交えて厳しくご指導いただきました。その厳しさゆえに、私自身の能力を疑うこともありましたが、それほどに、学芸員は資料を扱う際に、保存ということを意識しながら、気を配らなければいけないということです。展示という華やかな場を作る仕事以外に、資料に気を配り、保存という義務を陰ながらこなすのが学芸員でもあると、実感したのです。

最後になりましたが、博物館は、学芸員の努力によって成り立ちます。ですから、学芸員は展示の基礎である資料を大切に守り、そして展示や展示を利用したイベントを成功させるために陰ながら努力します。そして、それが学芸員の仕事、職務なのです。このことを、私はすみだ郷土文化資料館における実習で学ばせていただきました。さらに、充実した内容であったが故に、そうして奔走することで博物館を成立させていくという生きがいを感じられる職業である、ということも理解させていただいた実習でした。





データ編



平成20年度 資格課程履修者数

	学 部	年 次 学 科	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
			1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
教 職	経 済	経 済	38	8	44	8	26	12	28	12	136	40	176
		国 際 経 済	7	—	10	—	13	—	14	—	44	0	44
	法	法 律	33	15	28	11	30	9	26	18	117	53	170
		政 治	20	—	20	—	12	—	—	—	52	0	52
	経 営	経 営	23	—	27	—	16	—	15	—	81	0	81
		商 業	—	—	—	—	—	—	40	10	40	10	50
	商	会 計	2	—	9	—	7	—	7	—	25	0	25
		マ ー ケ テ ィ ン グ	26	16	35	6	44	6	—	—	105	28	133
	文	人 文	41	—	68	—	40	—	43	—	192	0	192
		心 理	6	—	6	—	6	—	3	—	21	0	21
		日 本 語 日 本 文	48	—	50	—	64	—	36	—	198	0	198
		英 語 英 米 文	39	—	44	—	29	—	27	—	139	0	139
職	ネットワーク情報	ネットワーク情報	19	—	25	—	21	—	24	—	89	0	89
	大 学 院		12	—	—	—	—	—	—	—	12	0	12
	科 目 等 履 修 生		—	39	—	—	—	—	—	—	0	39	39
	小 計		314	78	366	25	308	27	263	40	1,251	170	1,421
	合 計		392		391		335		303		1,421		

	学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 書	経 済	経 済	3	3	5	6	4	9	7	4	19	22	41
		国 際 経 済	1	—	3	—	—	—	2	—	6	0	6
	法	法 律	4	5	6	4	10	5	6	9	26	23	49
		政 治	2	—	—	—	2	—	—	—	4	0	4
	経 営	経 営	3	—	3	—	2	—	3	—	11	0	11
		商 業	—	—	—	—	—	—	6	2	6	2	8
	商	会 計	—	—	3	—	4	—	3	—	10	0	10
		マ ー ケ テ ィ ン グ	4	4	6	1	4	4	—	—	14	9	23
	文	人 文	22	—	54	—	34	—	27	—	137	0	137
		心 理	2	—	6	—	2	—	1	—	11	0	11
日 本 語 日 本 文		46	—	60	—	51	—	39	—	196	0	196	
英 語 英 米 文		3	—	5	—	3	—	2	—	13	0	13	
ネットワーク情報	ネットワーク情報	5	—	9	—	6	—	5	—	25	0	25	
大 学 院		1	—	—	—	—	—	—	—	1	0	1	
科 目 等 履 修 生		—	7	—	—	—	—	—	—	0	7	7	
小 計		96	19	160	11	122	18	101	15	479	63	542	
合 計		115		171		140		116		542			

	学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 書 教 諭	経 済	経 済	—	—	—	—	—	3	—	1	0	4	4
		国 際 経 済	—	—	—	—	—	—	1	—	1	0	1
	法	法 律	—	1	1	—	3	—	—	2	4	3	7
		政 治	—	—	1	—	2	—	—	—	3	0	3
	経 営	経 営	1	—	1	—	1	—	—	—	3	0	3
		商 業	—	—	—	—	—	—	2	2	2	2	4
	商	会 計	—	—	—	—	1	—	1	—	2	0	2
		マ ー ケ テ ィ ン グ	3	—	—	—	2	2	—	—	5	2	7
	文	人 文	2	—	1	—	2	—	9	—	14	0	14
		心 理	1	—	—	—	—	—	—	—	1	0	1
日 本 語 日 本 文		19	—	11	—	8	—	1	—	39	0	39	
英 語 英 米 文		—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	
ネットワーク情報	ネットワーク情報	2	—	2	—	1	—	3	—	8	0	8	
大 学 院		4	—	—	—	—	—	—	—	4	0	4	
科 目 等 履 修 生		—	1	—	—	—	—	—	—	0	1	1	
小 計		32	2	17	0	20	5	17	5	86	12	98	
合 計		34		17		25		22		98			

	学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
学 芸 員	経 済	経 済	1	—	1	—	—	2	9	2	11	4	15
		国 際 経 済	—	—	—	—	—	—	2	—	2	0	2
	法	法 律	3	1	1	1	2	—	—	—	6	2	8
		政 治	—	—	—	—	1	—	—	—	1	0	1
	経 営	経 営	1	—	1	—	1	—	3	—	6	0	6
		商 業	—	—	—	—	—	—	5	2	5	2	7
	商	会 計	—	—	2	—	1	—	—	—	3	0	3
		マ ー ケ テ ィ ン グ	2	—	2	—	4	1	—	—	8	1	9
	文	人 文	53	—	24	—	24	—	5	—	106	0	106
		心 理	3	—	2	—	—	—	1	—	6	0	6
日 本 語 日 本 文		20	—	5	—	8	—	1	—	34	0	34	
英 語 英 米 文		3	—	1	—	4	—	1	—	9	0	9	
ネットワーク情報	ネットワーク情報	2	—	—	—	2	—	1	—	5	0	5	
大 学 院		4	1	—	—	—	—	—	—	4	1	5	
科 目 等 履 修 生		—	1	—	—	—	—	—	—	0	1	1	
小 計		92	3	39	1	47	3	28	4	206	11	217	
合 計		95		40		50		32		217			

平成20年度 教員免許状取得状況一覧

データ編

Pana a Pana

	免許種類	中学一種					高校一種					中学専修					高校専修					合計
		社会	国語	英語	数学	小計	社会	国語	書道	英語	数学	小計	社会	国語	英語	公民	地理歴史	商業	英語	情報	小計	
生田	経済学科	13				13	18	17				36									—	49
	授与件数	11				11	13	13				26									—	37
	国際経済学科	8				8	7	8				16									—	24
	授与件数	6				6	4	7				12									—	18
	経営学科					—						10									—	10
	授与件数					—						7									—	7
	商業学科	7				7	9	7				32									—	39
	授与件数	4				4	3	7				24									—	28
	会計学科					—						3									—	3
	授与件数					—						2									—	2
	人文学科	28				28	36	21				57									—	85
	授与件数	22				22	25	14				39									—	61
	心理学科	2				2		1				1									—	3
	授与件数	2				2		1				1									—	3
研究科	日本語日本文学科		28			28						45		41							—	73
	授与件数		24			24						39		36							—	63
	英語英米文学科			19		19				24		24									—	43
	授与件数			18		18				24		24									—	42
	ネットワーク情報学科				8	8					10	15									—	23
	授与件数				4	4					5	8									—	12
	経済学					—						—					0				0	0
	授与件数					—						—					0				0	0
	経営学					—						—					0				0	0
	授与件数					—						—					0				0	0
	商学					—						—					0				0	0
	授与件数					—						—					0				0	0
	文学					—						—					0				0	0
	授与件数					—						—					0				0	0
神田	小計	58	28	19	8	113	70	54		24	10	239	0	0	2	2	0	1	0	4	5	359
	授与件数	45	24	18	4	91	45	42		24	5	182	0	0	2	2	0	1	0	3	4	279
	一部	14				14	16	24				40									—	54
	法律学科	13				13	12	22				34									—	47
	授与件数	5				5	5	6				12									—	17
	経済学科	4				4	3	5				9									—	13
	授与件数	5				5	5	8				13									—	18
	法律学科	5				5	5	7				12									—	17
	授与件数					—						—									—	1
	商業学科					—						—									—	1
	授与件数					—						—									—	1
	法学					—						—									—	1
	授与件数					—						—									—	1
	研究科					—						—									—	1
	授与件数					—						—									—	1
	経済学					—						—									—	1
	授与件数					—						—									—	1
	商学					—						—									—	1
	授与件数					—						—									—	1
科目等履修生	授与件数	9		2	2	13	14	9			4	30									—	43
	授与件数	6		2	2	10	11	5			1	20									—	30
	授与件数	33	0	2	2	37	40	47		2	4	96	0	0	0	0	0	0	0	0	0	133
	授与件数	28	0	2	2	32	31	39		2	2	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	108
小計	授与件数	91	28	21	10	150	110	101		26	14	335	0	0	2	2	0	1	0	4	5	492
	授与件数	73	24	20	6	123	76	81		3	6	258	0	0	2	2	0	1	0	3	4	387
合計																						

平成20年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	白樺学園高等学校	情報	経営	経営	
	北海道	白樺学園高等学校	情報	経営	経営	
	北海道	北海高等学校	地理歴史	商	商業	
	北海道	札幌大谷中学校・高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	青森県	光星学院高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	青森県	青森県立田名部高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	岩手県	岩手県立大船渡高等学校	地理歴史(日本史)	文学		歴史学
	岩手県	岩手県立盛岡第三高等学校	地理歴史(日本史)	文	人文	歴史学
	岩手県	岩手県立不来方高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	岩手県	専修大学北上高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	岩手県	奥州市立江刺東中学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	秋田県	秋田県立花輪高等学校	公民	経済	経済	
	秋田県	秋田市立秋田商業高等学校	商業	経済	国際経済	
	秋田県	秋田市立桜中学校	社会	経済	国際経済	
	山形県	山形県立山形中央高等学校	地理歴史	経済	経済	
	山形県	山形県立長井高等学校	地理歴史(世界史)	文	人文	歴史学
	福島県	聖光学院高等学校	地理歴史	経済	経済	
	福島県	郡山市立郡山第七中学校	社会	経済	経済	
	福島県	福島県立福島西高等学校	情報	経営	経営	
	福島県	須賀川市立第一中学校	社会	文	人文	歴史学
関東	福島県	福島県立安積黎明高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	福島県	猪苗代町立東中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	福島県	相馬市立向陽中学校	英語	文	英語・英米文	
	茨城県	茨城県立水戸第三高等学校	公民	経済	経済	
	茨城県	茨城県立下館第二高等学校	地理歴史	経済	経済	
	茨城県	茨城県立伊奈高等学校	公民	経済	経済	
	茨城県	小美玉市立美野里中学校	社会	経済	国際経済	
	茨城県	茨城県立水戸商業高等学校	商業	商	商業	
	茨城県	茨城県立土浦第三高等学校	商業	商	会計	
	茨城県	茨城県立境高等学校	地理歴史(世界史)	文	人文	歴史学
	茨城県	茨城県立古河第三高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	茨城県	日立市立泉丘中学校	社会	文	人文	社会学
	茨城県	ひたちなか市立勝田第三中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	茨城県	東海村立東海中学校	英語	文	英語・英米文	
	茨城県	茨城県立古河第一高等学校	英語	文	英語・英米文	
	茨城県	茨城県立麻生高等学校	英語	文	英語・英米文	
	栃木県	大田原市立親園中学校	社会	経済	経済	
	栃木県	芳賀町立芳賀中学校	社会	文	人文	歴史学
	栃木県	栃木県立鹿沼高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	群馬県	群馬県立高崎商業高等学校	商業	商	商業	
	群馬県	群馬県立前橋商業高等学校	商業	商	商業	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	群馬県	太田市立尾島中学校	社会	商	商業	
	群馬県	樹徳高等学校	英語	文	英語・英米文	
	群馬県	沼田市立沼田西中学校	英語	文	英語・英米文	
	群馬県	吉岡町立吉岡中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	群馬県	群馬県立伊勢崎高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	上尾市立大石中学校	社会	経済	経済	
	埼玉県	戸田市立喜沢中学校	社会	経済	経済	
	埼玉県	埼玉県立与野高等学校	商業	経済	国際経済	
	埼玉県	飯能市立美杉台中学校	社会	経済	国際経済	
	埼玉県	飯能市立美杉台小学校		経済	国際経済	
	埼玉県	浦和学院高等学校	公民	経済	国際経済	
	埼玉県	草加市立両新田中学校	社会	経済	国際経済	
	埼玉県	さいたま市立大宮南中学校	社会	経済	国際経済	
	埼玉県	西武台高等学校	商業	商	商業	
	埼玉県	深谷市立藤沢中学校	社会	商	商業	
	埼玉県	東野高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	埼玉県	埼玉県立鴻巣高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	埼玉県	東松山市立南中学校	社会	文	心理	
	埼玉県	川越市立砂中学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	埼玉県	西武学園文理高等学校	国語	文	日本語・文	日本語学
	埼玉県	埼玉県立坂戸高等学校	英語	文	英語・英米文	
東	埼玉県	西武学園文理高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	西武台高等学校	地理歴史・公民	文学研究科		歴史学
	埼玉県	草加市立谷塚中学校	国語	文学研究科		日本語・日本文学
	千葉県	千葉県立幕張総合高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	千葉県	千葉商科大学付属高等学校	商業	商	商業	
	千葉県	我孫子市立我孫子中学校	社会	商	商業	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	商	商業	
	千葉県	長生村立長生中学校	社会	商	商業	
	千葉県	千葉敬愛高等学校	地理歴史	商	商業	
	千葉県	千葉県立一宮商業高等学校	商業	商	商業	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	千葉県	銚子市立第六中学校	社会	文	人文	歴史学
	千葉県	銚子市立椎柴小学校		文	人文	歴史学
	千葉県	専修大学松戸高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	千葉県	千葉県立長生高等学校	国語	文	日本語・文	日本文学文化
	千葉県	船橋市立三田中学校	英語	文	英語・英米文	
	千葉県	千葉県立小見川高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	市川市立高谷中学校	英語	文学研究科		英語・英米文学
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	国際経済	
	東京都	東京都立赤羽商業高等学校	商業	経営	経営	

平成20年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関	東京都	八王子実践高等学校	地理歴史	商	商業	
	東京都	東京都立第一商業高等学校	商業	商	会計	
	東京都	帝京中学高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	江戸川区立二之江中学校	社会	文	人文	歴史学
	東京都	東京都立大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	東京都立昭和高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	帝京中学高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	練馬区立光が丘第二中学校	社会	文	人文	環境地理学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	東京都	東京成徳大学高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	東京都	東京都立南平高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	淑徳中学高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	東京都立本所高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	昭和第一学園高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	高輪中学・高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	東京都立駒場高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	東京都立芸術高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	江戸川区立葛西第二中学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	日体荏原高等学校	英語	文	英語・英米文	
東	東京都	帝京中学高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語・英米文	
	東京都	北区立滝野川中学校	数学	ネットワーク	ネットワーク	
	東京都	東京都立小川高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
	東京都	専修大学附属高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
	東京都	明治大学附属中野八王子高等学校	地理歴史	文学研究科		哲学
	神奈川県	神奈川県立麻溝台高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	厚木市立小鮎中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	厚木市立小鮎小学校		経済	経済	
	神奈川県	横浜隼人中学・高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立綾瀬高等学校	公民	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立新城高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立川崎高等学校	公民	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立小田原城東高等学校	商業	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校	公民	商	商業	
	神奈川県	湯河原町立湯河原中学校	公民	商	商業	
	神奈川県	茅ヶ崎市立北陽中学校	社会	商	商業	
	神奈川県	横浜市立谷本中学校	社会	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	地理歴史・公民	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	地理歴史	文	人文	哲学・人間学

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	横浜市立松本中学校	社会	文	人文	歴史学
	神奈川県	横浜市立本郷中学校	社会	文	人文	社会学
	神奈川県	神奈川県立深沢高等学校	公民	文	人文	社会学
	神奈川県	平塚市立旭陵中学校	社会	文	心理	
	神奈川県	神奈川県立生田東高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立谷本中学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立小田原高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	川崎市立福田中学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立桜丘高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	横浜市立南高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	桐光学園高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	神奈川県	横浜隼人中学・高等学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	横浜市立保土ヶ谷中学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	茅ヶ崎市立中島中学校	英語	文	英語・英米文	
	神奈川県	相模原市立内郷中学校	数学	ネットワーク	ネットワーク	
	神奈川県	平塚市立浜丘中学校	数学	ネットワーク	ネットワーク	
東	新潟県	聖籠町立聖籠中学校	社会	経済	経済	
	新潟県	新潟県立三条高等学校	公民	文	人文	哲学・人間学
	新潟県	帝京長岡高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	新潟県	新潟県立長岡向陵高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	新潟県	新潟県立三条東高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	新潟県	新潟明訓高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	新潟県	新潟市立東新潟中学校	英語	文	英語・英米文	
	新潟県	新潟県立長岡大手高等学校	英語	文	英語・英米文	
	新潟県	柏崎市立第三中学校	数学	ネットワーク	ネットワーク	
	山梨県	山梨県立甲府南高等学校	地理歴史	経済	経済	
	山梨県	山梨県立甲府南高等学校	情報	経営	経営	
	山梨県	山梨県立桂高等学校	公民	商	商業	
	山梨県	上野原市立蔵中学校	英語	文	英語・英米文	
	山梨県	上野原市立平和中学校	英語	文	英語・英米文	
	長野県	松商学園高等学校	商業	商	会計	
	長野県	千曲市立屋代中学校	社会	文	人文	歴史学
	長野県	長野市立柳町中学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	長野県	宮田村立宮田中学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
北陸	富山県	富山市立北部中学校	社会	経済	国際経済	
	富山県	南砺市立城端中学校	英語	文	英語・英米文	

平成20年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
東海	岐阜県	岐阜県立恵那高等学校	情報	ネットワーク	ネットワーク	
	静岡県	静岡県立浜松東高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	静岡県	伊豆の国市立大仁中学校	社会	経済	経済	
	静岡県	静岡県立浜松南高等学校	公民	経済	経済	
	静岡県	静岡県立御殿場南高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	静岡県	静岡県立御殿場高等学校	商業	商	商業	
	静岡県	富士宮市立西富士中学校	国語	文	日本語日本文学文化	
	静岡県	静岡県立榛原高等学校	英語	文	英語英米文	
	愛知県	豊橋市立東部中学校	社会	文	人文	歴史学
	近畿	大阪府 金光大阪高等学校	地理歴史	経済	経済	
中国	兵庫県	滝川第二高等学校	英語	文	英語英米文	
	鳥取県	米子北高等学校	情報	経営	経営	
	鳥取県	鳥取県立鳥取工業高等学校	地理歴史	文	人文	哲学人間学
	鳥取県	鳥取市立江山中学校	社会	文	人文	哲学人間学
	鳥取県	鳥取市立神戸小学校		文	人文	哲学人間学
	鳥取県	米子市立弓ヶ浜中学校	数学	ネットワーク	ネットワーク	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
中国	広島県	広島工業大学高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	山口県	長門高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	山口県	山口県立光高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
四国	徳島県	徳島県立富岡東高等学校	商業	商	商業	
	愛媛県	愛媛県立宇和島南中等教育学校	情報	経営	経営	
	愛媛県	愛媛県立宇和島東高等学校	商業	商	商業	
	高知県	高知県立高知追手前高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
九州・沖縄	福岡県	福岡県立福築志耕館高等学校	商業	経営	経営	
	福岡県	東福岡高等学校	地理歴史(日本史)	商	商業	
	長崎県	長崎県立島原高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	長崎県	長崎南山中学校高等学校	社会・地理歴史	商	商業	
	長崎県	長崎日本大学高等学校	英語	文	英語英米文	
	熊本県	専修大学玉名高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	大分県	大分県立日田高等学校	情報	経営	経営	
	沖縄県	昭和薬科大学附属中学校・高等学校	国語	文	日本語日本文学文化	

平成20年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	山形県	山形県立寒河江高等学校	公民	法	法律
	福島県	福島県立茨城高等学校	現代社会	法	法律
関東	埼玉県	春日部共栄高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律
	埼玉県	川越市立霞ヶ関東中学校	社会	法	法律
	埼玉県	春日部共栄高等学校	公民	法	法律
	千葉県	千葉県立成田国際高等学校	倫理	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	法	法律
	千葉県	市原中央高等学校	保健・衛生社会	法	法律
	千葉県	東邦大学付属東邦高等学校	政治経済	法	法律
	東京都	杉並区井荻原中学校	社会	法	法律
	東京都	三鷹市立第六中学校	社会	法	法律
	東京都	江戸川区立葛西第三中学校	社会	法	法律

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	聖学院中学校	日本史	法	法律
	東京都	東京都立豊島高等学校	政治経済	法	法律
	神奈川県	川崎市立宮前平中学校	社会	法	法律
東	神奈川県	神奈川県立藤沢西高等学校	地理歴史・公民	法	法律
	山梨県	山梨県立市川高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
甲信越	山梨県	韮崎市立韮崎西中学校	社会	法	法律
東海	岐阜県	中京高等学校	地理歴史(世界史)	法	法律
四国	香川県	香川誠陵高等学校	現代社会	法	法律
九州・沖縄	大分県	佐伯市蒲江翔南中学校	社会	法	法律
	沖縄県	沖縄尚学中学校	社会	法	法律

平成20年度 教育実習先一覧（二部）

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
北海道・東北	北海道	北海道帯広緑陽高等学校	地理歴史(日本史)	科目等履修生	
	青森県	つがる市立森田中学校	社会	法	法律
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	科目等履修生	
	宮城県	仙台市立中田中学校	公民	法	法律
	福島県	学校法人石川高等学校	英語	科目等履修生	
関東	茨城県	清真学園高等学校・中学校	地理歴史(日本史)	経済	経済
	群馬県	群馬県立沼田女子高等学校	地理歴史	法	法律
	埼玉県	埼玉県立浦和商業高等学校	商業	経済	経済
	埼玉県	埼玉県立岩槻高等学校	地理歴史(世界史)	経済	経済
	埼玉県	埼玉県立大宮武蔵野高等学校	地理歴史(日本史)	法	法律
	千葉県	千葉明德高等学校	地理歴史(日本史)	経済	経済
	東京都	江東区立辰巳中学校	社会	経済	経済
	東京都	杉並区立泉南中学校	社会	経済	経済
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	法	法律
	東京都	日の出町立平井中学校	社会	法	法律
	東京都	府中市立府中第七中学校	社会	法	法律
	東京都	明治大学付属中野中学校	社会	法	法律

	所在地	実習館名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	東京都立調布南高等学校	公民	法	法律
	東京都	品川区立荏原第五中学校	社会	商	商業
	東京都	東京都立芝商業高等学校	商業	商	商業
	東京都	杉並区立大宮中学校	社会	科目等履修生	
東	東京都	西東京市立田無第三中学校	社会	科目等履修生	
	東京都	八王子市立第五中学校	社会	科目等履修生	
	神奈川県	神奈川県立荏田高等学校	地理歴史	商	商業
甲信越	富山県	富山県立小杉高等学校	地理歴史(地理)	経済	経済
	富山県	富山県立水橋高等学校	地理歴史	商	商業
東海	愛知県	愛知県立名古屋南高等学校	地理歴史(世界史)	科目等履修生	
中国	岡山県	岡山県立玉島商業高等学校	公民	法	法律
九州・沖縄	福岡県	西南学院中学校・高等学校	地理歴史(日本史)	科目等履修生	
	大分県	大分県立日田高等学校	地理歴史(世界史)	科目等履修生	
	宮崎県	宮崎県立宮崎北高等学校	地理歴史(地理)	経済	経済
	沖縄県	興南高等学校	公民	商	商業
	沖縄県	沖縄県立宮古高等学校	英語	科目等履修生	

平成20年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	栃木県	宇都宮市立図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	埼玉県	さいたま市立中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	千葉県	印西市立大森図書館	法	法律	
	東京都	三鷹市立三鷹図書館	経済	経済	
	東京都	日野市立図書館	文	人文	環境地理学
	東京都	練馬区立光が丘図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	台東区立中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	専修大学図書館	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立図書館	法	法律	
	神奈川県	神奈川県立図書館	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	平塚市中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
甲信越	山梨県	上野原市立図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
東海	静岡県	浜松市立中央図書館	経済	経済	

平成20年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	北海道	北海道開拓記念館	文	日本語日本文	日本文学文化
	秋田県	にかほ市象潟郷土資料館	文	日本語日本文	日本文学文化
	岩手県	北上市立博物館	文	日本語日本文	日本文学文化
	宮城県	仙台市富沢遺跡保存館	文	英語英米文	
関東	栃木県	栃木県立博物館	経営	経営	
	群馬県	高崎市少年科学館	文	人文	歴史学
	群馬県	岩宿博物館	文	人文	歴史学
	埼玉県	さいたま市青少年宇宙科学館	文	人文	歴史学
	埼玉県	さいたま市青少年宇宙科学館	文	日本語日本文	日本文学文化
	埼玉県	さいたま市立博物館	文	人文	歴史学
	埼玉県	春日部市郷土資料館	経済	経済	
	埼玉県	埼玉県立さきたま史跡の博物館	経済	経済	
	千葉県	千葉県立中央博物館	文	人文	環境地理学
	東京都	日本郵政株式会社郵政資料館（通信総合博物館）	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	日本郵政株式会社郵政資料館（通信総合博物館）	商	マーケティング	
	東京都	明治大学博物館	文	人文	歴史学
	東京都	科学技術館	経済	国際経済	
	東京都	東京都恩賜上野動物園	文	人文	社会学
	東京都	野球体育博物館	経済	経済	
	東京都	紙の博物館	文	人文	哲学人間学
東	東京都	すみだ郷土文化資料館	文学研究科		歴史学
	東京都	江東区深川江戸資料館	文	人文	歴史学
	東京都	渋谷区立松濤美術館	文	英語英米文	
	東京都	目黒寄生虫館	文	人文	歴史学
	東京都	世田谷区立郷土資料館	文	人文	歴史学
	東京都	日野市郷土資料館	文	人文	歴史学
	東京都	町田市立自由民権資料館	文	人文	歴史学

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	東大和市立郷土博物館	文	人文	歴史学
	東京都	秩父宮記念スポーツ博物館	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	川崎市青少年科学館	経営	経営	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	英語英米文	
	神奈川県	相模原市立博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立歴史博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	シルク博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	馬事文化財団 馬の博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	県立神奈川近代文学館	経済	経済	
	神奈川県	カスヤの森現代美術館	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	文	英語英米文	
	神奈川県	大磯町郷土資料館	文	人文	歴史学
甲信越	新潟県	長岡市立科学博物館	文	人文	歴史学
	新潟県	新潟県立近代美術館	文	心理	
	新潟県	上越科学館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	新潟県	村上市郷土資料館	文	人文	歴史学
	石川県	金沢文化振興財団	文	人文	環境地理学
	山梨県	青春白樺美術館	文	人文	歴史学
	山梨県	山梨県立考古博物館	文	人文	歴史学
	長野県	長野県信濃美術館	文	日本語日本文	日本文学文化
	長野県	松本市立博物館	経済	経済	
	長野県	箕輪町郷土博物館	経営	経営	
東海	静岡県	佐野美術館	文	人文	歴史学
近畿	京都府	亀岡市文化資料館	文	人文	哲学人間学
	京都府	京都府立丹後郷土資料館	文	日本語日本文	日本文学文化

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成16年度	平16 経済・経済	郡山市立小原田中学校	非常勤	社会
	平16 経営・経営	学校法人立教学院（立教新座中学校・高等学校）	非常勤	情報
	平16 商・商業	学校法人川島学園（鹿児島実業高等学校）	期限付	商業
	平16 商・会計	学校法人明昭学園（岩倉高等学校）	非常勤	商業
	平16 商・会計	学校法人佐藤栄学園	専任	商業
	平16 文・英米文	常総市立石下西中学校	非常勤	英語
	平16 文・英米文	株式会社社会教育事業団（武蔵国際総合学園）	期限付	英語
	平16 文・英米文	黒磯市教育委員会	常勤	英語
	平16 文・人文	学校法人福田学院（東和大学附属昌平高等学校）	非常勤	地理歴史
	平16 文・人文	北区内小学校	非常勤	
	平16 院経営・修士	宮崎県立富島高等学校	専任	商業
	平16 院経営・修士	学校法人沼津精華学園（沼津中央高等学校）	専任	商業・情報
	平16 院文・修士	新潟県立新潟西高等学校	専任	英語
	平16 院文・修士	学校法人拓殖大学（拓殖大学第一高等学校）	非常勤	地理歴史
	平15 法・法律	学校法人湘南白百合学園（湘南白百合学園中学高等学校）	非常勤	情報
	平12 文・人文	松戸市立六実第二小学校	専任	全科
	平15 法・法律	松戸市立牧野原小学校	専任	全科
	平15 文・英米文	あきる野市内小学校	専任	全科
	平9 商・商業	学校法人開成学園（大宮開成高等学校）	非常勤	商業
	平15 文・英米文	川崎市立平間中学校	非常勤	英語
平成17年度	平13 経済・経済	川崎市立福田小学校	専任	小学校
	平15 経済・経済	専修大学附属高等学校	専任	英語
	平17 経済・国際経済	銚子市立銚子第五中学校	常勤	社会・理科
	平14 法・法律	八街市内中学校	専任	社会
	平16 法・法律	千葉県印旛村立いには野小学校	専任	小学校
	平17 法・法律	船橋市立七林小学校	常勤	全科
	平17 法・法律	学校法人駿河学院 藤枝学院実務高等専修学校	専任	
	平16 経営・経営	神奈川県立生田東高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 学校法人成城学園（成城学園高等学校）	非常勤	情報
	平16 経営・経営	専修大学附属高等学校 学校法人駒場学園（駒場学園高等学校）	非常勤	情報
	平16 経営・経営	学校法人立教大学（立教新座中学・高等学校） 学校法人慶應義塾（慶應義塾高等学校） 東京都立新宿山吹高等学校	非常勤	情報
	平16 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非常勤	情報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非常勤	情報
	平17 経営・経営	岩手県立福岡高等学校	常勤	情報・商業
	平17 経営・経営	学校法人佐藤栄学園（栄東中学・高等学校）	専任	情報
	平17 経営・経営	埼玉県立所沢西高等学校 埼玉県立秩父高等学校 埼玉県立小鹿野高等学校	非常勤	情報
	平15 商・商業	日本放送協会学園高等学校	常勤	商業
	平12 文・人文	東京都内小学校	専任	全科
	平13 文・英米文	加賀市立片山津中学校	専任	英語
	平15 文・英米文	川崎市立有馬中学校	専任	英語
	平16 文・国文	学校法人福田学園（東和大学附属昌平高等学校）	非常勤	国語
	平16 文・国文	鴨川市立江見中学校	常勤	国語
	平16 文・英米文	結城市立結城中学校	専任	英語
	平16 文・人文	横浜市立青葉台中学校	臨任	社会
	平17 文・人文	学校法人市邨学園（名古屋経済大学高蔵高等学校）	非常勤	地理歴史
	平17 文・人文	厚木市立林中学校	臨時の任用職員	社会
	平17 文・日本語・日本語	学校法人佐藤栄学園（埼玉栄高等学校）	常勤	国語
	平17 文・英語・英米文	学校法人柏専学院（新潟産業大学附属高等学校）	非常勤	英語
	平17 文・英語・英米文	学校法人松韻学園（福島高等学校）	常勤	英語
	平17 文・英語・英米文	東京都立足立東高等学校	専任	英語
	平17 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人開成学園（大宮開成高等学校）	非常勤	情報
	平17 商・商業	学校法人松韻学園（松栄高等学校）	常勤	公民・商業
	平17 院商・修士	東京都立新宿山吹高等学校	専任	商業・情報
	平16 院文・修士	拓殖大学第一高等学校	非常勤	地理歴史
	平16 院文・修士	新潟県立巻高等学校	専任	英語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成17年度	平16 科目等履修生	東京都立国立高等学校 東京都立美原高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 日本放送協会学園高等学校	非常勤	情報
平成18年度	平15 経済・経済	秦野市立堀川小学校	専任	全科
	平17 経済・経済	藤沢市立第一中学校	期限付	社会
	平17 経済・国際経済	銚子市立西中学校	専任	社会
	平9 法・法律	千代田区立麹町小学校	専任	全科
	平11 法・法律	学校法人渋谷教育学園（渋谷教育学園幕張高等学校）	非常勤	社会・公民
	平14 法・法律	小学校（川崎市）	専任	全科
	平14 法・法律	三田市立藍中学校	専任	社会
	平16 法・法律	足立区立千住本町小学校	専任	全科
	平17 法・法律	葛飾区立綾南小学校	専任	全科
	平16 経営・経営	専修大学付属高等学校	専任	情報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非常勤	情報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非常勤	情報
	平18 経営・経営	学校法人加計学園（岡山理科大学附属高等学校）	非常勤	情報
	平15 商・商業	甲斐市立玉幡小学校	専任	全科
	平17 商・商業	香川県立中部養護学校高等部	期限付	特殊（養護）
	平17 商・商業	YMCA高等学院	非常勤	商業
	平18 商・商業	浦安市立美浜中学校	非常勤	社会
	平18 商・商業	学校法人日本放送学園（NHK学園）	非常勤	商業
	平14 文・英米文	川崎市立御幸中学校	専任	英語
	平14 文・英米文	多摩市立東愛宕中学校	専任	英語
	平18 文・英語英米文	学校法人秀明学園（秀明英光高等学校）	非常勤	英語
	平18 文・英語英米文	渋谷区立中学校	非常勤	英語
	平18 文・英語英米文	平田村立小平中学校	常勤	英語
	平14 文・人文	四街道市立中央小学校	専任	全科
	平14 文・人文	八王子市立山田小学校	専任	全科
	平17 文・人文	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学校・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史
	平17 文・人文	学校法人誠恵学院（誠恵高等学校）	常勤	地理歴史
	平18 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立所沢西高等学校 埼玉県立庄和高等学校	非常勤	情報
	平16 院文・修士	東京都立町田養護学校	専任	
	平15 院文・修士	渋谷区立常磐松小学校	専任	全科
	平18 院文・修士	専修大学附属高等学校	非常勤	英語
平成19年度	平18 経済・経済	大田区立糀谷中学校	常勤	社会
	平19 経済・経済	常総市立中学校	常勤	社会
	平19 経済・経済	学校法人昭和第一学園（昭和第一学園高等学校）	常勤	公民
	平19 経済・経済	学校法人国士館（国士館中学・高等学校 全日制）	非常勤	社会
	平3 法・法律	さいたま市立安行小学校	専任	全科
	平11 法・法律	学校法人渋谷教育学園（渋谷教育学園幕張中学校・高等学校）	常勤	公民
	平16 法・法律	東京都立足立養護学校	専任	数学
	平17 法・法律	葛飾区立東水元小学校	専任	全科
	平18 法・法律	笛吹市立春日居中学校	専任	社会
	平19 法・法律	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	非常勤	地歴（世界史）
	平19 法・法律	学校法人箕面自由学園（箕面自由学園）	非常勤	
	平19 法・法律	栃木県教育委員会（高校社会）	非常勤	
	平17 経営・経営	横浜市立奈良小学校	専任	全科
	平19 経営・経営	学校法人青森山田学園（青森山田高等学校）	専任	商業
	平16 商・商業	鳩ヶ谷市立里中学校	常勤	社会
	平18 商・商業	川崎市立真福寺小学校	専任	全科
	平19 商・商業	伊勢原市立中沢中学校	臨時の任用	社会
	平19 商・商業	静岡県立磐田南高等学校	非常勤	商業
	平11 文・人文	神奈川県立三崎水産高等学校	非常勤	地歴
	平16 文・人文	千葉県教育委員会	専任	中・高社会
	平16 文・人文	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学高等学校）	非常勤	中学社会
	平16 文・人文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	非常勤	地歴
	平16 文・人文	浜松市立泉小学校	常勤	全科
	平17 文・人文	広島県立西条農業高等学校	非常勤	地歴
	平19 文・人文	群馬県立前橋女子高等学校	非常勤	国語
	平16 文・国文	立川市立立川第七中学校	専任	国語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成19年度	平19 文・日本語日本文	大田原市立大田原小学校	非常勤	全科
	平19 文・日本語日本文	浜松市立入野中学校	非常勤	国語
	平19 文・日本語日本文	学校法人大乘淑徳学園（淑徳巣鴨中学高等学校）	常勤	国語
	平19 文・日本語日本文	水戸市立見川中学校	非常勤	国語
	平19 文・日本語日本文	学校法人東京農業大学（東京農業大学第一高等学校） （東京農業大学第一高等学校中学部）	非常勤	国語
	平17 文・英語英米文	学校法人日田佐藤学園（藤蔭高等学校）	専任	英語
	平19 文・英語英米文	学校法人大森学園（大森学園高等学校）	非常勤	英語
	平19 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人日通学園（流通経済大学付属柏高等学校）	非常勤	情報
	平19 院経営・修士	東京都立新宿山吹高等学校 東京都立大泉高等学校 神奈川県立ひばりが丘高等学校	非常勤	情報
	平16 院文・博士	相模原市立相模台小学校	非常勤	全科
平成20年度	平19 院文・修士	学校法人東京家政学院（東京家政学院中学校・高等学校）	非常勤	英語
	平19 院文・修士	東京都立小川高等学校	非常勤	地歴
	平13 経済・経済	茨城県教育委員会（中学）	専任	社会
	平13 経済・経済	川崎市教育委員会（中学）	専任	社会
	平20 経済・経済	埼玉県立和光国際高等学校	期限付	情報
	平18 経済・国際経済	相模原市立大沢中学校	非常勤	社会
	平18 経済・国際経済	名古屋市教育委員会（小学校）	非常勤	全科
	平13 法・法律	足立区教育委員会（小学校）	専任	全科
	平18 法・法律	豊科町立豊科北中学校	非常勤	社会
	平19 法・法律	国分寺市立第7小学校	専任	全科
	平19 法・法律	東京都教育委員会（小学校）	期限付	全科
	平20 法・法律	富山県立富山商業高等学校	非常勤	公民
	平17 経営・経営	埼玉県立小鹿野高等学校	専任	情報
	平20 経営・経営	学校法人美作学園（岡山県作陽高等学校）	非常勤	情報
	平20 経営・経営	学校法人常総学院（常総学院高等学校）	常勤	情報
	平20 商・商業	倉敷市立真備陵南高等学校	常勤	情報・商業
	平18 商・商業	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学高等学校）	非常勤	公民
	平20 商・会計	学校法人鎌形学園（東京学館船橋高等学校）	非常勤	商業
	平10 文・人文	東京都教育委員会（中学・高校）	専任	社会
	平17 文・人文	専修大学附属高等学校	専任	地理歴史
	平18 文・人文	学校法人大妻学院（大妻女子大学附属中・高等学校）	専任	地理歴史
	平20 文・人文	市原市立八幡小学校	非常勤	小学校
	平20 文・日本語日本文	八戸市立下長中学校	常勤	中学校
	平20 文・日本語日本文	広島市立中広中学校	非常勤	国語
	平17 文・日本語日本文	守山市立小津小学校	専任	全科
	平20 文・英語英米文	豊橋市立東陽中学校	常勤	英語
	平20 文・英語英米文	神奈川県立白山高等学校	非常勤	英語
	平20 文・英語英米文	山武市立北小学校	非常勤	英語
	平18 文・英語英米文	東京都教育委員会（小学校）	専任	全科
	平18 文・英語英米文	新発田市立第一中学校	専任	英語
	平18 文・英語英米文	山武市立蓮沼中学校	専任	英語
	平18 文・英語英米文	東京都立練馬工業高等学校	専任	英語
	平20 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人 明星学園（浦和学院高等学校）	常勤	情報
	平20 院経営・修士	学校法人帝京学園（帝京中学・高等学校）	非常勤	情報
	平20 院商・修士	学校法人藤嶺学園（藤沢翔陵高等学校）	専任	情報・商業
	平18 院文・修士	専修大学附属高等学校	専任	英語
	平20 院文・修士	専修大学附属高等学校	非常勤	公民
	平20 院文・修士	学校法人東京女子学園（東京女子学園中学・高等学校）	常勤	国語
	平20 院文・修士	学校法人相模女子大学 相模女子大学中学部・高等部（高等部配属）	専任	国語
	平20 院文・修士	南足柄市立南足柄中学校	非常勤	特別支援

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

勤 務 先	
千葉明德短期大学図書館	市川市東国分中学校
瀬高町立図書館準備室（福岡県）	東京大学法学部図書館
日外アソシエーツ（株）	見附市立図書館（新潟県）
有隣堂	女子栄養大学図書館
下妻市立図書館準備室（茨城県）	東京医科大学図書館
杉並区立中央図書館（東京都）	葛飾区立四ツ木地区図書館（東京都）
種村立図書館（茨城県）	専修大学図書館
八街市立図書館（千葉県）	藤沢市立中央図書館（神奈川県）
鷺湖書房	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
長岡市立中央図書館（新潟県）	（株）雄松堂書店
青山学院女子短期大学図書館	国土館大学 鶴川図書館
実践女子大学図書館	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
相模原市立相模大野図書館（神奈川県）	神奈川県立川崎高等学校
東京福祉商経専門学校図書室	横須賀市立中央図書館
三省堂書店	神奈川県立図書館

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県栗原市役所	行田市郷土博物館
下妻市ふるさと博物館	さいたま市くらしの博物館民家園
行方市玉造公民館（資料館）	野田市郷土資料館
東京都埋蔵文化財センター	すみだ郷土文化資料館
群馬県埋蔵文化財センター	町立湯河原美術館
高山市立歴史民族館	国際航業株式会社
鳥羽水族館	秋田県埋蔵文化財センター
埼玉県埋蔵文化財センター	栃木県埋蔵文化財センター
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	富岡市立美術博物館福沢一郎記念美術館
（東京）電力館	MOA美術館
九州国立博物館	高松市歴史資料館
臼杵市教育委員会	逓信総合博物館
（財）山武郡市文化財センター	（株）乃村工藝社
調布市郷土博物館	日本民藝館
東京国際美術館	町田市フォトサロン
栃木県立博物館	山梨県立考古博物館
福井県立博物館	新発田市教育委員会
入間市郷土博物館	静岡県登呂博物館
松戸市立博物館	

平成20年度 資格課程年間行事表

課程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4 月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）							
	中 旬	履 修 登 録 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
		介護等体験オリエンテーション 実習希望校との内諾交渉	3・4 3						
5 月	上 旬	教育実習事前ガイダンス	4					博物館実習事前ガイダンス	3・4
	下 旬	介護等体験事前講習会 教育実習 （5月～10月） 介護等の体験開始 （5月下旬～2月初旬）	3・4						
6 月	上 旬	教育実習登録ガイダンス	3					博物館見学実習	3・4
		教育実習内諾書の提出	3						
	中 旬	教員免許状一括申請ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （3年次までに司書 教諭の単位をすべて 修得した者）	4		
7 月	下 旬	前 期 試 験（全 学 年）							
8 月		夏 期 休 暇（8月上旬～9月上旬）							
		前 期 追 試 験（全 学 年）							
				図書館実習	4			博物館実習（館務実習）	3・4
		夏 期 休 暇							
9 月	中 旬	教員免許状授与等申請 書確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次で司書教 諭の科目を履修し た者）	4		
10 月	上 旬	教職公開講座	1～4					博物館実習登録ガイダンス （第1回）	2・3
11 月	上 旬	専修大学英語科教育研究会	1～4					博物館実習登録ガイダンス （第2回）	2・3
	下 旬	教育学会	1～4						
12 月	中 旬							実習希望博物館との内諾交渉	2・3
	下 旬			司書課程就職 （進路）相談会	1～4			学芸員資格取得証明書申 請手続き	4
1 月	中 旬	後 期 試 験（全 学 年）							
2 月	下 旬	後 期 試 験（全 学 年）							
3 月	上 旬							博物館実習承諾書の提出	2・3
	2 2 日	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成20年度 教職公開講座開催結果

1. 開催日 平成20年10月4日(土)
2. 時 間 13:30～17:00 (17:30～19:00 反省・情報交換会)
3. 場 所 生田校舎 8号館 (反省・情報交換会会場: グリーントップ (3号館横食堂棟3階))
4. 参加者数 98名
5. 内 容

(1) 現職教員(専大OB)からの提言

(教員採用試験の内容・合格までの勉強方法および現職教員としての現在)

講 師 (卒業年・学部・学科)	勤 務 先	科 目
三好 裕介 先生 (平成18年3月文学研究科修了)	豊島区立西池袋中学校	国 語
村上 尊 先生 (平成13年3月文学部英米文学科卒業)	越谷市立大相模中学校	英 語
木村 瑠美子 先生 (平成12年3月文学部人文学科卒業)	横浜市立鴨居中学校	社 会
杉山 比呂之 先生 (平成17年3月文学部人文学科卒業)	専修大学附属高等学校	地 理 歴 史
松井 一郎 先生 (昭和58年3月商学部商業学科卒業)	学校法人 明德学園相洋高等学校	商 業
高橋 正憲 先生 (平成17年3月経営学研究科修了)	東京都立新宿山吹高等学校	情 報
清水 直子 先生 (平成18年3月商学部商業学科卒業)	小学校教諭	小 学 校
麦倉 克英 先生 (平成2年3月法学部法律学科卒業)	宇都宮市立西が岡小学校	

(2) 採用者側からの助言

(教職員の望ましいあり方および現在の教育課程について)

講 師	長 船 孝 明 先生 (昭和53年3月商学部会計学科卒業)	東京都立大田桜台高等学校校長
-----	----------------------------------	----------------

(3) タイムテーブル

時 間	内 容	場 所
13:30～13:40	挨拶 教職課程協議会委員長 法学部 教授 広瀬裕子	
13:50～14:20	現職教員からの提言① 国 語 三好 裕介 先生 社 会 木村瑠美子 先生 商 業 松井 一郎 先生 小 学 校 清水 直子 先生	821教室 822教室 823教室 824教室
14:30～15:00	現職教員からの提言② 英 語 村上 尊 先生 地理歴史 杉山比呂之 先生 情 報 高橋 正憲 先生 小 学 校 麦倉 克英 先生	821教室 822教室 823教室 824教室
15:10～15:50	現職教員とのディスカッション 国 語 三好 裕介 先生 英 語 村上 尊 先生 社 会 木村瑠美子 先生・地理歴史 杉山比呂之 先生 商 業 松井 一郎 先生・情 報 高橋 正憲 先生 小 学 校 麦倉 克英 先生・清水 直子 先生	812教室 821教室 822教室 823教室 824教室
16:00～17:00	採用者側からの助言 長船 孝明 先生	814教室
17:30～19:00	終了後、反省・情報交換会	グリーントップ (3号館横食堂棟3階)

平成20年度 第17回専修大学英語科教育研究会開催結果

1. 開催日 平成20年11月 8日（土）
2. 時間 13：15～16：45（受付13：00～）
3. 場所 生田校舎 10号館 3階 10303教室
4. 参加者数 51名
5. 内容

時間	内 容
13：00～	受付
13：15	開会の挨拶 司会：文学部准教授 片桐 一彦 元文学部教授 伊部 哲
13：25～14：55	「エンカレッジスクールにおける英語指導」 東京都立足立東高等学校教諭 横瀬 喬哉
15：25～16：55	「総合英語（英語Ⅰ・英語Ⅱ）の指導実践」 NHKラジオ高校講座英語Ⅱ講師、 お茶の水女子大学附属高等学校教諭 浅見 道明
16：55～17：00	閉会の挨拶 文学部教授 上村 妙子

平成20年度 司書課程就職（進路）相談会開催結果

1. 開催日 平成20年12月6日（土）
2. 時間 15：00～17：00
3. 場所 神田校舎 206教室
4. ゲスト 本学経済学部4年 伊藤 聡之（司書課程受講生）
5. 参加者数 15名
6. 内容 伊藤さん自身の就職活動の経過や経験を伺いながら、図書館関連の就職活動について懇談。



平成20年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	矢吹 芳洋	公民科教育論
経済学部	講 師	角田真紀子	発達・学習心理学
法学部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
法学部	准 教 授	鈴木 秀光	法律学
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
商学部	教 授	伊吹 克己	倫理学
商学部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育論
商学部	教 授	中野 育男	商業科教育論
商学部	准 教 授	小峰 直史	特別活動論
文学部	教 授	青山 高義	自然地理学概論Ⅱ
文学部	教 授	新井 勝紘	日本史
文学部	教 授	大庭 健	倫理学
文学部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文学部	教 授	高橋 龍夫	国語科教育論Ⅰ
文学部	教 授	田邊 祐司	英語科教育論Ⅱ
文学部	教 授	仲川 恭司	書道科教育論
文学部	教 授	貫 成人	哲学
文学部	教 授	松尾 容孝	人文地理学概論Ⅰ
文学部	准 教 授	江崎 雄治	人文地理学概論Ⅱ
文学部	准 教 授	片桐 一彦	英語科教育論Ⅰ
文学部	准 教 授	苅谷 愛彦	自然地理学概論Ⅰ
ネットワーク 情報学部	教 授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク 情報学部	教 授	綿貫 理明	情報と職業
ネットワーク 情報学部	講 師	望月 俊男	情報科教育論
経済学部	兼任講師	斉藤 利彦	社会科教育論Ⅰ
経済学部	兼任講師	菅澤 康雄	社会科教育論Ⅰ
法学部	兼任講師	樋口 州男	日本史
法学部	兼任講師	三宅裕一郎	法律学
法学部	兼任講師	油井原 均	教育課程論
法学部	兼任講師	森 美保子	発達・学習心理学
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育方法論
商学部	兼任講師	飯森 富夫	日本史
商学部	兼任講師	泉 貴久	地理学
商学部	兼任講師	市川 功	倫理学
商学部	兼任講師	井出 功孝	特別活動論
商学部	兼任講師	岩田 公夫	教育職員論
商学部	兼任講師	神山 安弘	地理歴史科教育論
商学部	兼任講師	小瑤 史朗	社会科教育論Ⅰ
商学部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論Ⅰ
文学部	兼任講師	大熊 徹	国語科教育論Ⅰ
文学部	兼任講師	岡 秀一	地誌学
文学部	兼任講師	小林 基男	外国史
文学部	兼任講師	澤邊 和浩	外国史

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文学部	兼任講師	角田 清美	地誌学
文学部	兼任講師	長阪 朱美	英語科教育論Ⅰ
文学部	兼任講師	田口 博子	宗教学
文学部	兼任講師	両角 雅彦	地理学
文学部	兼任講師	山下 直	国語科教育論Ⅱ
文学部	兼任講師	山田 智	外国史
ネットワーク 情報学部	兼任講師	高橋 聡	数学科教育論Ⅰ

《司書・司書教諭》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	准 教 授	荻原 幸子	図書館概論
文学部	准 教 授	野口 武悟	学校経営と学校図書館
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法学部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報検索演習
法学部	兼任講師	田中 功	情報検索演習
法学部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	松戸 宏予	学習指導と学校図書館
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文学部	兼任講師	松本 直樹	図書館サービス論
文学部	兼任講師	汐崎 順子	児童サービス論
文学部	兼任講師	須賀 千絵	図書館経営論
文学部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス概説
文学部	兼任講師	長谷川幸男	児童サービス論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館学
文 学 部	教 授	亀井 明德	博物館実習

編集後記

昨年9月の金融危機に端を発した経済危機で、景気は一気に悪化しています。100年に一度といわれ、派遣切りや内定取り消しなど雇用環境は厳しさを増すばかりです。グローバル化が進展する中、一つの国の出来事があっという間に全世界に影響を与える時代です。時代状況に合わせる形で進められてきた自由化、市場化、規制緩和等の改革も、見直されつつあります。資格課程でも様々な改革が進められてきました。こうした時代だからこそ、何を変え、何を堅持するか、しっかりと考える必要があるように思います。

本号より、『パッソ ア パッソ』が新しくなりました。まず、発行日が変わりました。これまで発行日は、11月1日でした。毎年11月に開催される専修大学教育学会の大会に合わせていたからです。本号から、4月1日としました。11月発行では、前々年度の古いデータも含まざるをえず、これを改善したいと考えたからです。

内容上の変更も行っています。これは主に教職課程ですが、小学校での教育実習、小学校教員免許取得、教科研修生、学校教育ボランティア、教員採用試験対策講座受講、教職公開講座などの体験・参加レポートを新たに追加しました。『パッソ ア パッソ』は、資格課程年報として、メンバーの研究成果と資格課程の活動成果の掲載を主な役割としています。本号もこの役割に根本的に変えてはいませんが、資格課程で実施している活動を可能な限り掲載することにしました。実習校や実習館の訪問指導の際に、先生方には本年報を持参していただくことになり、その結果、現場の先生方や生徒たち、そして図書館や博物館の職員やスタッフの方々が本年報を目にする機会が増えました。そこで、本学の資格課程が行っている活動を可能な限り掲載し、知ってもらいたいと考えたからです。つまり、情報誌の要素を少し強くしたということです。今後、本年報が、本学資格課程の情報誌としても活用されることを期待しています。

ご多忙の中、投稿していただいた方々には、心より感謝申し上げます。

2009年 4 月 1 日

資格課程年報編集委員会

編集委員長 矢 吹 芳 洋

編 集 委 員 亀 井 明 徳

仲 川 恭 司

野 口 武 悟

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力

専修大学が創り育てる “知”

専修大学は、2009年、創立130年を迎えます。

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目加田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあつて、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に据え直し、「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」を21世紀のビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

平成20年度 専修大学

資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成21年 4 月 1 日

編 集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

神田校舎 教務課・二部事務課

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-1244

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

U R L http://www.senshu-u.ac.jp/sc_grsc/shikaku/

印 刷 株式会社 芳文社 〒194-0033 東京都町田市木曽町2320 TEL 042-792-3100

